

2020年5月1日

みずほディーラーズアイ (2020年5月号)

みずほ銀行

目次

米ドル相場	2	韓国ウォン相場	9
ユーロ相場	4	台湾ドル相場	10
英ポンド相場	6	香港ドル相場	11
豪ドル相場	7	中国人民元相場	12
カナダドル相場	8	シンガポールドル相場	13
		タイバーツ相場	14
		マレーシアリング相場	15
		インドネシアルピア相場	16
		フィリピンペソ相場	17
		インドルピー相場	18

* 見通しは各ディーラーのビューに基づきます。

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

米ドル相場

予想レンジ: USD/JPY 104.00 ~ 108.00

金融市場部 グローバルFIチーム 大庭 泰典

■ 先月の為替相場

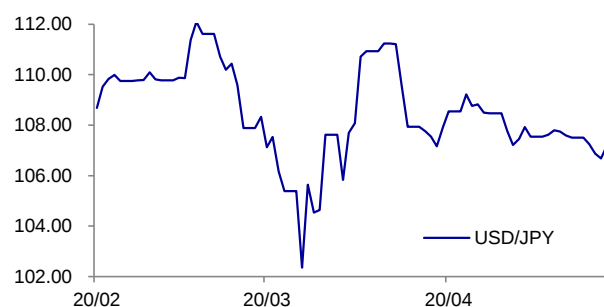
4月は109.38 - 106.36 円と約3円程度の狭いレンジで推移した。10円超の値幅を見せた3月のボラタイルな展開とは対照的な値動きとなった。1日週はドル買いに反転。月初1日は日経平均株価が1,000円超の下げ幅を記録すると一時106.93円まで下落。2日はサウジアラビアが原油協調減産に向けOPECプラス緊急会合を呼びかけたことで原油先物が上昇し、108円台を回復。3日は原油価格急騰が止まるとドル円は方向感に欠け108.49円で越週。6日週は108円台後半で揉み合う展開。週初6日は欧州中心に感染者数の増加ペースが緩やかになり、リスクオン地合いとなると4月高値109.38円をつけた。翌7日は、安倍首相が緊急事態宣言するも影響は限定的。NY州のウィルスによる死者数が過去最多を記録するとリスクオフムードに。8日も前日の流れを引き継ぎ一時週安値108.51円まで下落するも、日経平均株価が堅調に推移すると連れ高となり109円台を回復。しかし滞空時間は短く、再び108円台半ばを推移。9日はOPECプラスで原油減産の暫定合意が予想を下回る減産規模であったことで108円台前半まで下落。10日はイースター休暇で積極的な取引は控えられた。週初13日、週末にOPECプラスで原油原産合意がなされるも原油価格が下落し、107円台半ばまで下落した。14日は米金利が下落する動きに107円を下抜け、15日に週安値106.93円を記録。16日は株安と金利低下が進行したことで、再び有事のドル買いが進み108円を上抜けた。しかし、落ち込みが目立つ米国経済指標が嫌気されると107円台前半まで下落。17日は新型コロナ治療薬への期待から108円を上抜けたが、週末を控え107円台中心の推移。20日週は原油相場がマイナス価格で取引されるも107台後半を揉み合った。週初20日は、五・十日絡みの本邦輸入企業のドル買いに108円手前まで上昇するが、動意に乏しい展開。WTI原油先物がマイナス価格で取引されるも為替相場への影響は限定的。22日もブレント原油先物が下落する動きを横目に107.52円まで下落する場面もあったが、米金利上昇や米株の上げ幅拡大を受けて107.94円まで上昇。23日は日銀がコロナ感染拡大への対策検討との報道を受けて一時週高値108.05円まで上昇したが、米製薬会社開発の抗ウイルス剤の治験初回が失敗したことでも上昇幅を失い、107.60円付近で小動き。24日は来週の各国中央銀行の金融政策会合を控え様子見ムード。27日週はドル安進行。24日の日銀政策決定会合では追加緩和を決定。事前観測通りの内容でサプライズはなかった。28日は107円を割れるとドル売りが加速し、106円台半ばまで下落。30日も106円台を推移。

■ 今月の見通し

今月は新型コロナ感染による経済停止モードから再開モードに向けて、感染第2波への警戒から、引き続き急激な経済回復は期待できず、寧ろ感染再拡大が確認されれば、失望感からの円高進行リスクに警戒したい。国内では政府が緊急事態宣言の延長を検討する中、欧米諸国では5月からロックダウン緩和の動きが見られる。しかし、ロックダウンの早期緩和は、感染第2波の可能性を急激に高め、政府の経済早期再開の政策とは裏腹に、米国の世論調査でも感染再拡大を危惧している意見が多い。米国の経済成長は一部4〜6月は40%縮小すると予想されている。特に雇用は深刻で、5月8日に4月の雇用統計が発表時には失業率が10%超の公算が大きく、米経済は既に恐慌に入っている。感染防止と経済再開の板挟みではあるが、例えば米国が新たな感染の大流行を引き起こさずに経済活動を再開できたとしても、世界の大部分ではロックダウンがまだ継続しているだろう。アフリカ諸国や中南米諸国等では、観光やビジネスがパンデミック前の水準にすぐに戻るとは考えにくい。「アビガン」等国内でも新型コロナ治療効果が期待できる薬の承認が進み、記録的なスピードでワクチン開発成功の可能性もあるが、感染第2波への警戒は根強く残ると予想する。大半の感染症流行には複数の波があり、100年前の1918年冬のスペイン風邪の第2波は同年春の第1波より遥かに深刻であった記録もある。トランプ米大統領の新型コロナに対する強気姿勢は、11月の米大統領選に向けて経済はV字型の景気回復を狙いたいという思惑が背景にあるが、今のところ、緩やかな経済再開・始動と停止を繰り返しながら、なだらかでU字型の景気回復が2現実的であろう。寧ろ、各国が早期に経済活動の全面再開した場合、第2波による世界の落胆と新たな恐慌の可能性を考えると、V字型の回復は非常に難しいと言える。為替市場は他資産に比べドル円の値動きは膠着している。原油先物が歴史的なマイナス価格を記録しても、27日に日銀が追加金融緩和を発表しても106〜107円近辺を推移。3月こそ未知なるウィルスの拡大による経済停止に相場の乱高下に痛手を被った機械取引や、極端な経済指標や政策変更にも動揺しなくなった投資家の存在に加え、先々の為替ヘッジを早期に締結していることが背景であろう。コロナ慣れとの言葉も見られるが、次のステージは異なる。自粛疲れ、経済活動抑制再開による第2波への警戒であろう。再び感染拡大が確認されれば、前述の通りV字回復どころかU字回復への期待が大きく剥落し、リスクオフによる円高進行には警戒したい。

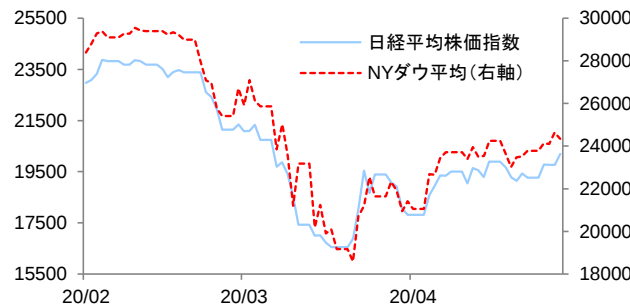
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
4/1	ISM製造業景況指数	3月	44.5	49.1	50.1
4/3	平均時給	3月	3.0%	3.1%	3.0%
4/3	非農業部門雇用者数変化	3月	-100k	-701k	275k
4/3	失業率	3月	3.8%	4.4%	3.5%
4/3	ISM非製造業景況指数	3月	43.0	52.5	57.3
4/9	PPI	3月	-0.4%	-0.2%	-0.6%
4/10	CPI	3月	-0.3%	-0.4%	0.1%
4/15	小売売上高(速報、前月比)	3月	-5.2%	-3.1%	-0.1%
4/15	NY連銀製造業景況指数	4月	-35.0	-78.2	-21.5
4/29	GDP	1Q	-4.0%	-4.8%	2.1%

カスタマーディーラーの相場観、注目点(本編の内容とは必ずしも一致しません)

■ドル/円 見通しまとめ

ブル	6名	108.75 ～ 105.00	ベア	15名	108.00 ～ 104.00
----	----	-----------------------	----	-----	-----------------------

※ レンジは中心値

田中	ブル	108.50 ～ 105.00	欧米では外出規制緩和に動く等新型コロナの悲観論が後退も、実体経済の回復は遠く、寧ろ緩みによる第2波に注意。ドル円はやや反発を想定も本邦需給の変化に上値は限定的となろう。
竹内	ベア	109.00 ～ 104.00	各国中銀による政策動員が奏功し、パニック的なドル売りは回避。一方、実体経済への悪影響が今後の経済指標により顕在化。緩やかなドル下落を想定。
筒井	ブル	110.00 ～ 104.00	ボラティリティの高い月を予想。米実質金利は底打ち傾向にあり、ドル需要と共に同金利の上昇が為替市場に影響を与える。ドル円の105円割れでは買い需要が喚起されるだろう。
加藤	ブル	108.00 ～ 105.00	市場参加者の目は新型コロナウィルスの感染拡大から実体経済への影響を見極める段階へ移行する。当初のパニック的なリスクオフ姿勢に若干調整が見られる月になりそうだ。
関	ベア	108.00 ～ 104.00	FRBは連邦債務を心配すべき時ではないとして、徹底的に政府・財務省を側面支援。FRBは資金供給を継続し、B/Sの拡張が想定され、雇用喪失と景気後退の打破に追加緩和の動きが想定される。軟調な原油価格もドル円の重石となる。
光石	ベア	108.00 ～ 104.00	米国においては経済の正常化に向けた議論が始まり、一部からはV字回復への期待感も出てきているものの、実態経済への影響はこうした想定を上回るものとみておりドルの上値を抑える要因となろう。
山岸	ベア	109.00 ～ 104.00	日米欧で突出したFRBの量的緩和政策が、ドル需給緩和と金利低下圧力になり、リーマンショック後と同様、ドル安に振れやすいと予想。足元ベースコストは改善、LIBOR金利も低下基調。量的緩和と表裏一体の財政拡張もドル安材料。
田坂	ベア	109.00 ～ 104.00	コロナショックに伴う実体経済悪化だけでなく、原油価格暴落に端を発する金融市場の信用収縮は引き続き警戒すべきリスク。コロナワクチン・治療薬関連のHLにドル円が上昇する局面があったとしても、一時的だろう。
尾身	ブル	109.00 ～ 106.00	EUR安傾向、米株相場の持ち直し、経済活動解除への期待感などから、ドル相場は引き続き高値圏を維持すると予想しており、ドル/円相場もつれ高の相場展開を予想している。
上野	ベア	108.00 ～ 104.00	市場ではコロナ収束を期待した動きが広がる。株式市場は買い戻しの動き、為替市場に於いてはドル買いの巻き戻しの動きが強まる。米政策金利が0近傍まで低下した状況下では、ドル円は下方向に向かいやすいか。

岡本	ブル	109.00 ～ 105.00	新型コロナウィルス拡大が一服、ロックダウン解除の様子を窺いながらリスクオフ巻き戻し継続でドル円は底堅く推移すると予想。しかし、各中銀からドルは潤沢に供給されており、ドル買い意欲が高まる場面は多くないだろう。
小野崎	ブル	108.00 ～ 105.00	新型コロナウィルス関連のヘッドラインでの相場変動は一巡。一定の調整を見せたドル円は徐々に反発を想定する。しかし、実態経済への悲観的な見方は避けられず上値は限定的か。
玉井	ベア	108.00 ～ 106.00	引き続き先行き不透明感は強く、原油価格の低迷もある中、ドル円は上値の重い展開となろう。ただし経済活動再開への期待からリスク資産上昇を受けたクロス円の上昇の動きに、ドル円の下値も限定的となり狭いレンジでの推移となりそうだ。
原田	ベア	110.00 ～ 104.00	新型コロナウィルスによる影響によって、引き続き不確実性が高止まりし、リスクオフ地合いが継続すると予想。堅調であった雇用についても悪化の一途をたどっており、ドル円は上値の重い展開となろう。
大庭	ベア	108.00 ～ 104.00	コロナ慣れから、次は経済再開見通しスケジュール。特に経済活動抑制再開による感染第2波への警戒であろう。再び感染拡大が確認されれば、V字回復どころかU字回復への期待が大きく剥落し、リスクオフによる円高進行には警戒したい。
高村	ベア	108.00 ～ 104.00	日米とも新型コロナの感染拡大は一旦ピークアウトし、短期的にはポジションの巻き戻し局面となろう。米ドルの緊急的な買い需要は落ち着き、米長期金利が低位で推移する中、ドル売り方向に調整が入る余地は充分ありそう。
松本	ベア	109.00 ～ 104.00	新型コロナウィルスの影響が引き続き世界経済の重しとなるリスクオフ地合いは変わらずか。経済再開する国も出てくるだろうが、根本的な解決策が出てこない限りはドル円上値重い展開を予想。
逸見	ベア	108.00 ～ 104.00	コロナへの過度な懸念の後退につれ、市場の焦点は経済政策に移行か。FRBによる無制限量的緩和とゼロ金利政策は非常に強力がゆえに、ドルの供給過多と金利低下によるドル安の進行を想定している。
大谷	ベア	108.00 ～ 104.00	米国では一部地域において経済正常化の兆しが見えつつあるものの、新型コロナウィルスによる実体経済への悪影響が顕在化する中、ドル円は円高に振れやすい地合いが続くと予想。
谷舗	ベア	108.50 ～ 105.50	経済活動再開への期待からリスクオンムードが支配的になると思料。ただし、足元リスクオン時には全般的にドル売りとなっている。5月はこの流れが継続し、ドル円は上値重い推移となるのではないか。
大熊	ベア	109.00 ～ 104.00	経済活動再開への期待はあるものの、新型コロナのワクチンが開発されるまでは警戒態勢を緩めることは難しいと思われ、V字回復は期待し難い。余剰感からドル需要が後退していることもあり、上値重い推移を予想。

ユーロ相場

予想レンジ: EUR/USD 1.0600 ~ 1.1150
EUR/JPY 113.00 ~ 118.00

市場営業部 為替営業第一チーム 逸見 久貴

■ 先月の為替相場

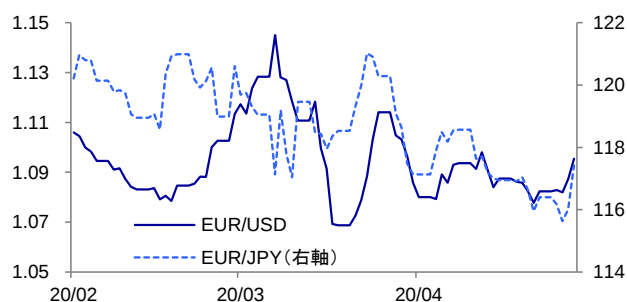
月初、ユーロ/ドルは1.1025でオープン。欧州でのコロナウィルス感染拡大の懸念から、欧州経済の先行き不透明感が意識され売り優勢。1.09前半まで下落した。翌2日はドイツ政府がGDPの大幅な縮小を見込むとの報道を受けユーロ売り地合いが継続。1.08前半まで軟調に推移。3日は欧州の冴えない経済指標が嫌気され1.08台を割り込む展開。6日、スペインでウィルスの感染者が4日連続で減少したことを受けてユーロはジリ高となり、1.08台前半まで上昇。7日は新規材料に乏しい中、欧州株の堅調な推移を背景としたユーロ/円の上昇にサポートされ一時1.09 台前半まで上昇。8日、EU 財務相会合でウィルス対策の合意に至らなかったとの報道に1.08 台前半まで反落。9日は、FRB の追加措置の報道を背景にドル売りが進み、1.09半ば付近まで上昇した。10日はイースター休暇のため市場参加者は限定的となり、1.09台で動意乏しい展開。週明けの13日、下落したユーロ/円に連れて、一時1.09を割り込んだ。14 日は、米金利低下を受けてドル売りが優勢となると、EU 圏内でウィルス感染拡大のピークが過ぎたとの期待感にも後押しされてユーロ/ドルは底堅く推移し、1.10台手前まで上昇した。15日は原油価格が下落する中、1.08台半ばまで反落。しかし米経済指標の悪化からドル売りの展開となると、1.09 台前半まで上昇した。16日は、ドル買いが優勢で、上値の重い展開となると1.08台前半まで下落。17日、米金利低下によるドル売りが優勢になるとユーロ/ドルは1.08台後半まで上昇。20日は、1.08台半ばで方向感に欠ける展開。21日は、世界的な株安と原油安を背景にリスクオフのドル買いが続き、一時1.08台前半まで下落。その後、ユーロ/円の上昇に後押しされ、1.08台後半まで連れ高となった。22日は、欧州の冴えない経済指標を受けユーロ売り優勢となると、1.08付近まで下落。23日、前日に引続き経済指標の下振れに1.07台半ばまで下落。その後、メルケル独首相が「ウィルス対策予算は巨額であるべき」とEU 各国首脳に述べたと伝わると、1.08台半ばまで回復。ただ、「EU首脳会議、救済策の合意なし」とのヘッドラインにユーロは売られ、1.07台後半で上値の重い推移となった。24日は、EU首脳会議にて詳細が先送りされたことで、欧州圏への不透明感はぬぐえず上値は重く、1.08付近を推移。27日は、月末にECBを控え様子見ムードとなり、1.08台前半での小動き。28日、米株の上げ幅を拡大させる動きを横目に有事のドル買いが巻き戻され、ドル安の展開。1.09台手前まで上昇するも、終盤にかけて、米格付会社がイタリアを格下げしたことが伝わると、ユーロ安となり、結局1.08台前半まで下落した。

■ 今月の見通し

今月のユーロ/ドルは緩やかに下落する展開を想定する。コロナウィルスが蔓延し、はや3か月が経過した。当初は中国を中心とした問題だったが、その感染範囲は世界中に拡大し、先月は各国主要都市のロックダウンによってグローバルに経済活動が停止した。足元の欧州では感染拡大のピークは過ぎ、ロックダウンの段階的な緩和が検討されている。経済活動再開への期待が高まることは、ポジティブなことであるが、各地域ごとの対応には時差があるうえに、再感染リスク排除への対応もしなければならない。さらに、サプライチェーンが世界中に跨っていることを考慮すると、経済活動の完全な正常化には、まだ相応に時間を要すると考えたほうが良いだろう。欧州経済は、中国の小型車減税の終了や排ガス規制の厳格化によって、もともと経済が停滞していたタイミングでのコロナショックであり、日欧米の中で最もファンダメンタルズの弱い状況は継続するであろう。政治面に目を向けると、イギリスの合意なき離脱リスクへの高まりに警戒している。今年の1月末からFTA交渉期間に入ったわけだが、アイルランドの国境や漁業などの問題は当初から平行線を辿ったままである。離脱期限である12月1日までにFTAを結ぶ必要があるが、これまでEUが結んできたFTAは数年単位の時間を要していることから、本件のスケジュールは非常にタイトである。合意なき離脱を避けるためには、離脱期限を延長することが第一のステップと考えられるが、その延長可否の期限は6月末となっている。5/11と6月1日週の2回のみの交渉で、期限延長に関する合意をEU・英間で形成していく必要があることや、ジョンソン英首相がEU離脱協定法の中に、離脱期限の延長を禁止する旨の条項を入れていることを勘案すれば、Brexitを巡る政治的混乱が5月から6月にかけて発生する可能性は高いだろう。政治・経済の両面において先行き懸念が意識される中、ユーロは売り地合いとなる展開を想定している。

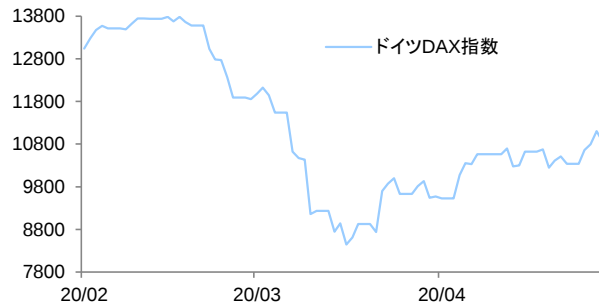
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

発表日	イベント
4/9	ECB理事会議事要旨
4/17	欧州CPI (前年比)
4/23	ユーロ圏製造業PMI
4/30	欧州GDP (前期比)
4/30	CPI (前月比)
4/30	ECB主要政策金利

(資料) ブルームバーク

期間	予想	結果	前回
3月	-	-	-
3月	0.7%	0.7%	0.7%
4月	38.0	33.6	44.5
1Q	-3.8%	-3.8%	0.1%
4月	0.1%	0.3%	0.5%
4月	0.00%	0.00%	0.00%

カスタマーディーラーの相場観、注目点(本編の内容とは必ずしも一致しません)

■ ユーロ/ドル 見通しまとめ

ブル	2名	1.1100 ～ 1.0700	ベア	19名	1.1000 ～ 1.0600	※ レンジは中心値				
田中	ベア	1.1000 ～ 1.0600	財政面で有事に迅速に意思統一できないEUの弱点が露呈も、一旦はコロナ感染の最悪期を脱したことから救われた。ユーロの反発は限定的で懸念材料の多さに下値リスク継続。				岡本	ベア	1.1000 ～ 1.0550	新型コロナウイルス感染は欧州でも拡大一服。ECBは緩和的な姿勢を継続、各都市のロックダウン解除は好材料も、南欧諸国のサポート方法についてEUで一枚岩となり切れず。政治不安が継続する中では、ユーロは下押ししやすいだろう。
竹内	ベア	1.1100 ～ 1.0600	新型コロナウイルスの影響を受けて、ドル軟調地合いとの綱引き。欧州域内の景気停滞は経済指標の悪化と共に今後顕現化。緩やかなユーロ下押し圧力は継続。				小野崎	ベア	1.1000 ～ 1.0500	新型コロナウイルス関連のヘッドラインでの相場変動は一巡も欧州経済の回復にはしばらく時間を要するのではないかと。そのような中で積極的なユーロ買いは想定しがたい。
筒井	ベア	1.0900 ～ 1.0500	新型コロナウイルスの影響大きく、人・モノの動きが止まっている欧州経済へのインパクトは大きい。回復度合いも他国対比遅延する可能性が高いこと、及びドル回帰トレンド継続からユーロ安がメインシナリオ。				玉井	ベア	1.09 ～ 1.0700	欧米ともにコロナウイルスの感染拡大はピークを迎えたようであるが、経済活動の再開は段階的かつ限定的であろう。ユーロ圏ではイタリア等財政余力の乏しい国もあり、経済回復に時間がかかると思われ上値の重い展開が継続しそうだ。
加藤	ベア	1.1000 ～ 1.0700	市場参加者の目は新型コロナウイルスの感染拡大から实体经济への影響を見極める段階へ移行する。当初のパニック的なリスクオフ姿勢に若干調整を見込む。				原田	ベア	1.1100 ～ 1.0300	欧州の新型コロナウイルス感染者数の増加率はピークを付けたと思われるが、生産活動の停止は続いており、ユーロ圏の景気回復はまだ先の話となろう。引き続きユーロ安地合いとなるものと予想。
関	ベア	1.1000 ～ 1.0600	一部ロックダウン解除の動きも見られるが、景気回復への道程は長く、追加緩和策にも打ち止め感が見られる。欧州圏各国の財政規律を合わせる事は難航が予想され、ユーロドルは下落方向を見込む。				大庭	ベア	1.1000 ～ 1.0600	米国以上にロックダウンの緩和が先行している欧州諸国ではあるが、感染第2波への警戒は残る。中国と共に欧州の経済活動再開が順調に進めば、ユーロ買いが進むだろうが、まだ様子見姿勢は根強い为上値も限定的であろう。
光石	ベア	1.1000 ～ 1.0600	新型コロナウイルスにより、ただでさえ経済状況が低迷していた欧州経済は再度深刻な低迷期を迎えるものと予想。ユーロは上値が重い展開となろう。				高村	ブル	1.1100 ～ 1.0700	域内主要各国でロックダウン解除の見込みで、新型コロナの感染状況は米国対比早期に落ち着き始めている。緊急時としての短期的なドル高にも調整が入ると考えられ、ユーロは対ドルで支えられると小確りと推移しそう。
山岸	ベア	1.1000 ～ 1.0600	イタリア・スペインなど欧州での感染拡大は深刻。IMFの2020年成長率見通しでは、日米欧3極の中でユーロ圏がGDPの成長率、前回からの修正幅ともに最も悪く、経済先行きへの厳しい見方からユーロは買いづらい状況。				松本	ベア	1.1100 ～ 1.0600	新型コロナウイルスの感染者の増加率がピークを越えたとの見方があるが、感染拡大が深刻であった欧州においてはまだ予断を許さない状況。また实体经济に影響が出てくるのもこれからであり、ユーロ安地合いが継続すると予想。
田坂	ベア	1.1000 ～ 1.0600	コロナショックがもたらした欧州経済への打撃、一枚岩になれない欧州圏の政治動向と、引き続きユーロ買いの材料は乏しい状況。ユーロ下値模索の展開を予想。				逸見	ベア	1.1150 ～ 1.0500	主要都市のロックダウンが段階的に解除されていくと考えられるが、停止した経済活動の正常化にはまだ時間を要するため、欧州圏の景気回復を期待するのは時期尚早。またBrexitに関する不透明感もユーロの下押し要因か。
尾身	ベア	1.1100 ～ 1.0800	コロナ対策の為に金融緩和、欧州におけるコロナ問題の深刻さなどの影響に引きづられユーロ安傾向が継続すると考えている。				大谷	ベア	1.1000 ～ 1.0600	欧州主要都市のロックダウン解除はユーロ相場の下支えになると思われる一方、实体经济への悪影響が顕在化する中、ユーロは上値重い展開になると予想。
上野	ベア	1.1000 ～ 1.0500	コロナ収束への期待感が醸成される中で、ドル買いの巻き戻しが起きている状況ではある。しかし、コロナウイルスの感染が広がり、経済も弱く、政策金利がマイナスの欧州通貨を積極的に買う動きは強まりにくい。引続きリスクは下。				谷舗	ブル	1.1100 ～ 1.0700	新型コロナウイルスが欧州に与える影響は小さくないが、それはどの国でも同じ。FRBはドル金利をゼロまで引き下げたが、ECBはこの難局を金利引き下げなしに乗り越えており、ユーロは徐々に上値を伸ばしていくと予想。
							大熊	ベア	1.1100 ～ 1.0600	コロナ禍の終息が見通せない中、復興基金による支援に関して、財政状況が健全な北欧諸国とフランスを筆頭とした南欧諸国で意見が割れている。亀裂状態が長期化すればユーロが売られやすい地合いは継続すると思われる。

英ポンド相場

予想レンジ: GBP/USD 1.2000 ~ 1.2700
GBP/JPY 120.00 ~ 137.00

欧州資金部 山本 泰平

■ 先月の為替相場

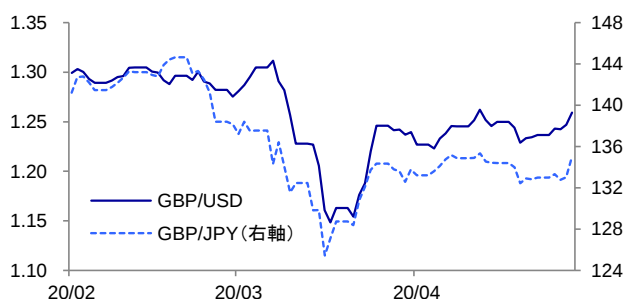
4月のポンドドルは、1.24付近でオープン。序盤は、先月末に発表された英GDP成長率で、ロックダウン以前の10-12月期には、既にゼロ成長に鈍化していたことが明らかとなり、米格付会社が、英長期債格付けを上から3番目の「ダブルA」から、同4番目の「ダブルAマイナス」へ1段階引き下げる等、英経済停滞懸念が強まる中、上値重い展開。3日、発表された英3月総合購買担当者景気指数(PMI)改定値は、調査開始以来最低となる36.0を記録。さらに、新型コロナの感染を公表し自主隔離を続けていたジョンソン英首相の事態が5日に急変し、集中治療室(ICU)に入ったと伝わると、英政権運営能力を懸念する向きから月中安値1.2166に下落。9日、英中銀が新型コロナウイルス対応の一時的な措置として、政府が国債発行による資金調達に困難になった場合、政府に資金を融資(2008年の世界金融危機時に使った措置)すると表明すると、ポンドは買いに転じ、1.2648に上昇。しかし、トランプ米大統領が17日の会見で、「ドルはとても強い。強いドルは全体としてとても良いことだ」と、「強いドル」支持に転じると反落。21日には、英3月失業保険申請件数が前月比1万2200件増加(2月:5900件増)し、これに基づく失業率は3.5%と、2014年以來の高水準となったことから、1.2248まで下落した。12-2月の国際労働機関(ILO)基準の失業率は4%。英予算責任局からは、パンデミック終息後には10%に上昇するとの見方が示された。しかし、23日、英債務管理庁が、5-7月の期間中に1800億ポンドの国債を発行する計画を発表すると、財政出動期待から、底入れ。国債発行計画に対し、過去最低水準付近で推移していた英国債利回りは小幅にしか上昇しておらず、市場が動揺している兆しもなかった。24日には、英中銀が新型コロナウイルス感染拡大による市場への影響緩和に向け、緊急流動性供給オペを5月末まで実施すると発表し、一段のポンド買いを誘い、結局、ポンドドルは月初のレベル付近まで値を戻した。

■ 今月の見通し

5月のポンドドル相場は、やや上値重い展開を予想。英中銀は2012年以降実施していなかったCTRFを3月末に再開し、当初は国内金融機関から110億ポンドを超える需要があったが、4月に入り資金需要は減少。24日の1カ月物オペで需要がゼロだったことに鑑みると、市場の混乱は落ち着いた様子。北海ブレント原油先物相場も2002年の安値から持ち直し、市場の混乱は一服感があるが、英国での新型コロナウイルスの感染被害は広がっていることから、リスク回避のポンドドル売りが大幅に縮小する可能性は低いだろう。注目の5月7日の英中銀金融政策委員会会合では、経済予測を示される予定だが、特段の政策変更は無い見通し。先月発表された、国立経済社会研究所(NIESR)予想によると、外出禁止などの措置により英第1四半期GDPが前期比5%減少し、第2・四半期は15-25%減少する見込み。20年通年の実質成長率もマイナス12.8%になると発表された。3月下旬から始まった外出制限が3カ月続くと仮定で、4-6月期には失業率が10%に到達するとも見込まれている。新型コロナウイルス対策として英政府は、5-7月に4-3月の発行額(1561億ポンド)を上回る財源を確保するが、英政府は新型コロナの流行を受け、一時的に失職した労働者の賃金の8割を補償するなど、前例ない規模の経済対策を実施する中、継続性を懸念する向きが強い。移行期間終了後の英欧通商関係を巡っては、5月11日、6月1日にビデオ会議を実施し、首脳レベルで進捗を評価する予定。EU首席交渉官からは早々に、漁業権などの問題で英国側からの歩み寄りがみられないことに不満が表明されている。移行期間は2020年末以降「延長しない」が英政権の基本スタンスだが、コロナウイルスの影響により「延期止む無し」とのムードが強い。英世論調査(3月20-23日)によると「新型コロナ対策に集中するため移行期間の延長を申し出るべきだ」との回答が64%に達している。

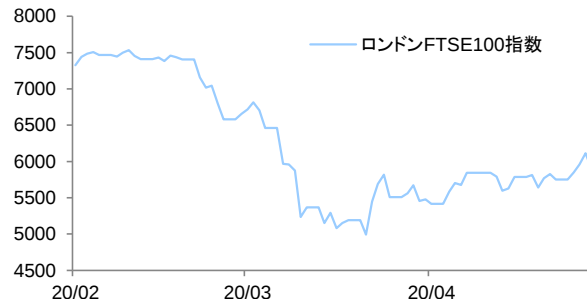
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
4/1	製造業PMI	3月	47.0	47.8	47.8
4/3	サービス業PMI	3月	34.8	34.5	34.5
4/6	建設業PMI	3月	44.0	39.3	52.6
4/9	鉱工業生産(前年比)	2月	0.1%	0.1%	0.2%
4/21	ILO失業率	2月	3.9%	4.0%	3.9%
4/22	消費者物価指数(前年比)	3月	1.5%	1.5%	1.7%
4/24	小売売上高(含自動車/前年比)	3月	-5.0%	-5.8%	0.0%

豪ドル相場

予想レンジ: AUD/USD 0.6230 ~ 0.6690
AUD/JPY 67.20 ~ 74.50

アジア・オセアニア資金部 シドニー室 川口志保

■ 先月の為替相場

月初は米株先物が下落し、豪ドルは0.61台前半から0.60台後半へ下落。米3/28新規失業保険申請件数が前週から倍増し、2週連続で過去最多を更新すると更に0.60近辺まで下落。PBOCが農業系銀行を対象に預金準備率を引き下げると0.60割れ、ドル需要が強まる中で0.59台まで下落した。6日、世界的に新型コロナウイルスの感染者数増加が頭打ちとなり、豪議会で大型雇用対策法案も可決。RBAも政策金利据え置きを発表し、先行き不透明感が和らいだが、NYで新型コロナウイルス感染者数が過去最多となり再度リスクオフの流れへ。8日S&Pが豪国債格付け見通しを「Negative」に引き下げると0.6116まで下落。しかし欧州の一部でロックダウンから正常に戻す事を検討との報道で楽観ムードから株が上昇すると0.6230まで上昇。その後OPEC+において日量1000万バレルの減産で暫定合意がされたが、減産量は予想を下回りリスク回避の流れとなった。13日は石油減産拡大期待から原油先物が、一部“質への逃避”の流れから金が増加。商品通貨が増加し、豪ドルは0.64台に乗せ。これまでドル需要逼迫への警戒感からドル買いが強まっていたが、FRBにより流動性供給が強化されている事やコロナ感染拡大ペース失速の兆しを受け、ドル需要が緩和し、豪ドルも買戻された。15日はIEAが世界の石油供給過剰はOPEC+減産でも解消しないとの見通しを発表し、0.63割れ。16日、豪3月雇用統計は新型コロナの影響を織り込んだ市場予想ほどの悪化は免れた。しかし今後の悪化懸念は払拭されず一時、0.6310まで上昇も、すぐに0.62半ばへ。しかしトランプ大統領の米経済再開指針発表を好感し、米株が増加すると0.6330近辺まで戻した。17日は原油先物急落も、新型コロナウイルス感染拡大予防措置として停止していた経済活動に一部再開の動きや、某製薬会社の治療薬が新型コロナ患者の治療に効果がみられるとの報道で株が戻し、0.63台後半まで上昇。市場の緊張が幾分か和らいだことでドル買いが巻き戻された。20日、CMEの「WTI先物はマイナス圏での取引も可能」とのコメントを受け、原油先物投げ売りとなり、史上初のマイナス圏で引け。この暴落で豪ドルも0.63台前半まで下落。その後は原油価格持ち直しや米景気対策法案第4弾の可決を受け世界全体に株高となり、豪ドルも一時0.64台に乗せたが米製薬会社の新型コロナウイルスワクチン開発の臨床実験失敗の報道に米株が上値を削る展開となり、0.63台後半で揉み合った。29日豪1QCPIは森林火災や新型コロナウイルスの影響で2014年以来の高水準となり。豪ドルは月末にかけては外出規制が一部で緩和され、ややセンチメントが改善。実需の買いも上昇をサポートし豪ドルは0.65台へ乗せた。

■ 今月の見通し

5月の豪ドルは上値を探り、その後は上値を切り上げる展開を予想する。

直近では新型コロナウイルス罹患後に免疫を獲得する人の割合が低い為、WHOがパンデミック第二波の可能性に警鐘を鳴らしているが、新型コロナウイルス感染者数の増加ペースが失速している事で一部ロックダウンや外出制限の緩和がみられ、これまでのリスクオフ巻き戻しの流れが続いている。

4月末では0.6570近辺の100日線や0.6690近辺のフィボナッチ前戻しレベルが意識されており、慎重ながらも上値となるか試す動きとなろう。

今後発表予定豪経済指標はのロックダウンの影響をある程度織り込み済みではあるが、RBAロウ総裁が示した見通し通り、豪失業率が6月までに10%近くに上昇し、今年上半期の豪GDPの縮小幅が10%近辺に近づく局面では豪ドルの重しとなろう。

また、各国でロックダウン解除が延長され、経済活動再開に遅れが出る懸念や再度原油先物価格が意識される場面では不透明要因がリスクセンチメントの重石となる場面では上下振幅が予想される。

■ 今月のつぶやき(現地からの声)

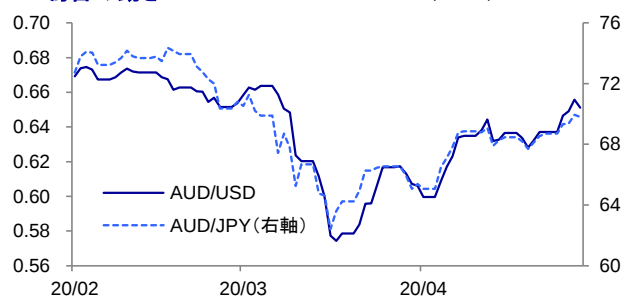
『当地の飲料水事情』

オーストラリアの水の硬度は地域によって異なり、メルボルン、パース、シドニーは軟水で、アデレードやブリスベンは硬水です。水道水は飲めますが、フッ素、塩素、クロロミン等が含まれている為、美味ではないですし、胃腸の弱い方にはお勧めできません。現地の方は大体1.5L(A\$1ドル〜\$3)のミネラルウォーターを買いだめするか、浄水器を利用しています。サイズが大きくなるにつれて1L当たりの値段が格段に安くなります。

また、ミネラルウォーターの代替品として人気なのはいろいろな味の炭酸水、flavoured sparkling waterです。味の種類も多様で、ラズベリーやライム、レモン、梨等があります。

■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
4/1	住宅建設許可件数(前月比)	2月	3.0%	19.9%	-15.1%
4/3	小売売上高(前月比)	2月	0.4%	0.5%	-0.3%
4/7	貿易収支	2月	A\$3800m	A\$4361m	A\$4745m
4/7	RBAキャッシュレート		0.25%	0.25%	0.25%
4/16	雇用者数変化	3月	-30.0K	5.9K	25.6K
4/16	失業率	3月	5.4%	5.2%	5.1%
4/16	労働参加率	3月	65.9%	66.0%	66.0%
4/29	CPI(前期比)	1Q	0.2%	0.3%	0.7%

カナダドル相場

予想レンジ: USD/CAD 1.3800 ~ 1.4500
CAD/JPY 74.00 ~ 80.00

グローバルマーケット業務部カナダ室 芦崎 瑞穂

■ 先月の為替相場

4月USD/CADは1.4259でオープン。原油減産が合意に至ったものの、原油需給のバランスをとることは難しく、石油貯蔵庫も足りていないことから、原油価格は続落。ついには先物の限月交代に原油価格は史上初のマイナスへと転じた。再びカナダドルは原油価格の動きに大きく影響される月となった。石油輸出国機構OPECとロシアなどの非加盟国で構成するOPECプラスが原油減産に向けて協議を行うとの報道に、20台を割り込んでいた原油価格は急伸し、29.13をつけた。それに連れて、カナダドルもじりじりと1.39台前半ばまで上昇、その後は狭い範囲で推移する。石油輸出国機構(OPEC)とロシアなどの産油国が5月と6月に日量970万バレルの減産を決定したが、原油需給バランスを考慮すると、減産は十分ではないとの市場の反応に原油価格は反落。USD/CADは1.40を上抜ける。9日カナダ3月雇用統計では、ネット雇用変化が予想-50万人に対して2倍以上増加し、-101万人となり、失業率は2月の5.6%から7.8%へと悪化した。同日発表の米週間新規失業保険申請件数は660.6万件と予想を上回り、米国3月の消費者物価指数(CPI)は前月比とコアが10年ぶりに下落。軟調な米国経済指標を材料にカナダドルは1.39台半ばまで買い戻される。4月15日カナダ中央銀行の政策金利決定会合で金利据え置きが決まり、原油価格が20を割り込再び19.20まで値を下げるとカナダドル売りが進みカナダドルは再び1.4132まで下落。16日発表の米国新規失業保険申請件数は524万5千件に上り、フィラデルフィア連銀景況指数が大きく予想を下回ったことから、1.4063までUSDドルが売られる場面もあったが、20台前半まで値を戻していた原油が再び下落し始めるとカナダドルも1.4183まで下落。更に20日の相場では、原油先物の(5月限)が史上初めてのマイナス圏での取引になると、カナダドルは1.4265へと急落した。その後石油輸出国機構(OPEC)が、5月10日に会合を開き追加減産を協議する可能性があることが好感され、原油価格がやや回復し、原油価格はプラスへと転じた。それに連れカナダドルも強含みへ推移する。月末に向けてはトランプ米大統領が米経済の再開に向け、各州は3段階で封鎖措置の解除を始める意向を示したとの報道や、欧州連合も国境制限を緩和をする必要があると言及するなど、経済活動が再開されるという期待にリスク回避がやや後退。原油価格の上昇もあってUSD/CADは1.40を割り込み、1.39台半ばで取引されている。

■ 今月の見通し

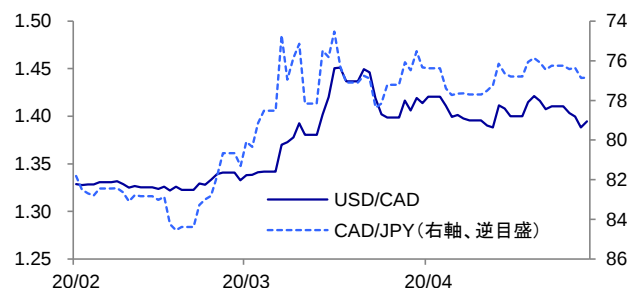
カナダの新型コロナウイルスの感染者数は5万人を超えた。感染者の約82%がオンタリオ州とケベック州に集中している。オンタリオ州では、新型コロナウイルスによる死者と新規感染者の増加ペースが落ちており、感染者数が予測していた8万人を大幅に下回っていることから、ピークは過ぎたとの見解を示した。欧州、米国に続き、カナダもロックダウン(都市封鎖)措置を段階的に解除する計画があるとした一方で、引き続き必要不可欠な業種を除く事業所の閉鎖や集会などは自粛される。原油価格の下落と、新型コロナウイルスの感染拡大から景気後退となったことで、カナダ政府は州、家計、企業へ大規模な支援を行った。コロナウィルスの感染拡大以前から州政府には連邦政府を上回る853bilカナダドルの負債があった。州政府はヘルスケアや教育の費用も負担、いくつかの州のその費用はエネルギー産業の収益から支払われている。アルバータ州の予算は原油価格をベースとしており、2月に1バレル58.00で算出されていたが、原油が下がった今は赤字となっている。石油ガス企業は政府に200-300億ドルの支援パッケージを求めている。カナダ中銀は引き続き資産購入プログラムを拡大するなど支援を続けているが、まだ不十分だとされており、新たな政策が必要とされている。G7の中で、ドイツとカナダのみがAAAの格付けをされているが、カナダの財政が不安定に見えることから、格付けが下がるとの懸念が生じている。格付けが下がればカナダドルに大きな影響を及ぼすと推測される。いよいよ今月は新型コロナウイルスと共存しながらの経済活動が始まろうとしている。しかし、ワクチンも開発されておらず、再流行する可能性も払拭できずリスクがある中、需要減退がすぐに回復するのは難しい状況である。再び感染者が増加し、5月中に経済活動が再開されるとの期待が打ち消されれば、原油価格は再び落ち込むことになると思われる。カナダでは3月中旬から必須でない事業は閉鎖され、自宅待機が要請されていることから、8日発表のカナダ4月雇用変化は大きく落ち込むと思われる。政府や中央銀行の支援策などには今後も注目。引き続き新型コロナウィルスの感染拡大状況や原油価格、産油国の追加減産を協議にも注視したい。

■ 今月のつづき(現地からの声)

『当地の飲料水事情』
カナダには31,000もの湖があり、地形や気候も相まって、水資源に恵まれています。このトロントの水道水は、オンタリオ湖を水源としています。オンタリオ湖は5大湖の中では最小の湖ですが、それでも四国4県を合わせたくらいの大きな面積があります。地元の人たちのレジャー憩いの場であり、例年これからの季節はカヌーやヨットに興じ、湖畔でもピクニックなど楽しむ人たちが賑わいます。(今年は新型コロナウイルスの感染拡大で閑散)オンタリオ湖から取水、浄水された水道水は毎日6時間ごとに水質検査されており、そのまま飲んでも良い水準だと言われています。とはいえ地域によっては水道管の老朽化により鉛が溶け出すことが問題となっており、新しい水道管へ交換する工事が徐々に進められているところです。安全に、よりおいしく水をもっと多くの家庭では家庭用浄水器やウォーターサーバーを導入しているようです。ペットボトルの水も、ここ数年は環境に配慮してエコボトルの需要が増えています。カナダでは地域によって、虫歯を防ぐために、水道水にフッ化物を添加する'フッリデーション'が行われています。しかしフッ化物の安全性がたびたび疑問視されており、三分の二の地域が水道水へのフッ化物添加をとりやめています。虫歯になる人が増え、フッリデーションを再開した地域も見られます。フッリデーションの是非をめぐる論争は今後も続きそうです。

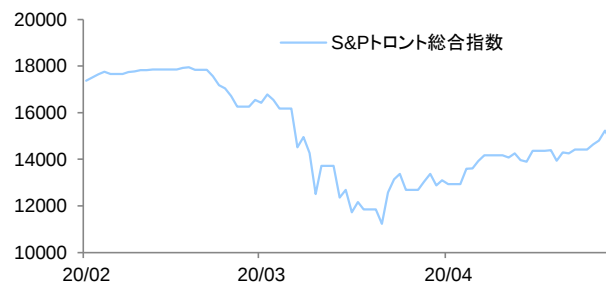
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
4/2	貿易収支	2月	-2.30b	-0.98b	-1.47b
4/8	住宅着工件数	3月	172.5k	195.5k	210.1k
4/9	雇用者数変化	3月	-500k	-1010.7k	30.3k
4/9	失業率	3月	7.5%	7.8%	5.6%
4/15	カナダ中央銀行政策金利	-	0.3%	0.3%	0.3%
4/16	鉱工業売上高	2月	0.10%	0.50%	-0.20%
4/21	小売売上高(前月比)	2月	0.003	0.3%	0.4%
4/22	消費者物価指数(YOY)	3月	1.1%	0.9%	2.2%

韓国ウォン相場

予想レンジ:

USD/KRW 1180 1260
 KRW/JPY 8.475 ~ 9.174
 JPY/KRW 10.900 ~ 11.800

(注) 100韓国ウォンあたりの対円レート

ソウル資金室 下山 泰典

■ 先月の為替相場

4月のドル/ウォン相場は、1200～1250の比較的広いレンジ内で上下した。月初は1219.80でオープン。米国での新型コロナウイルスによる死者が中国の人数を上回るなど欧米での感染拡大が特に意識され、2日には1242.50の月高値を付けた。その後、コロナウイルスと合わせてリスク材料として意識されていた原油価格を巡って、米国がロシアとサウジの仲介をするという報道や、韓国での日次新規感染者数が徐々に減少している状況などがウォンをサポートし、10日には月安値となる1206.80まで下落した。

その後、OPECプラスによる日量970万バレルの減産が不十分と見られたことや、配当金関連フローによるウォン売り、軟調なものが続いた米指標や米大手金融機関の決算などを受けて1215～1230レベルに徐々に上昇。なお、15日に行われた韓国国会議員選挙では政権与党が単独過半数を獲得し大勝したが、相場への影響は限定的だった。また、17日には中国1～3月期GDPが前年比▲6.8%と正式発表が始まった1992年以来で初めてのマイナスとなったが、市場予想から大きな乖離はなく、こちらも影響は限定的だった印象だ。

20日の海外時間にはWTI先物の価格が史上初めて一時マイナス圏に転落するなどセンチメントが悪化したほか、21日には北朝鮮の金正恩氏が手術後に非常に危険な状態になっていると報じられ一時1240台まで上昇。但し、その後に韓国政府等から否定や懐疑的なコメントが報じられると、一旦は戻した。

最終週は、月末に絡む実需のウォン買いや、欧米での外出規制の緩和や経済活動再開期待等を受けてセンチメントがやや改善、ドル/ウォンには下押し圧力がかかり、29日は1218.20でクローズ。

■ 今月の見通し

5月のドル/ウォン相場は、もみ合う展開を予想する。引き続き、新型コロナウイルスの動向ならびに経済への影響が焦点となろう。

本稿執筆時点では、韓国では日々の新規感染者数が10～20人程度となり、むしろ終息が意識され、欧米では徐々に経済再開の動きが見えつつある状況。これらを好感し、世界全体的に株式市場などは復調の兆しもあるが、原油価格は需要減や貯蔵の問題などもあり下押し圧力がかかり、センチメントを押さえている状況だ。

市場の安定には各国政府の経済支援策や中央銀行の緩和策等も大きく寄与しているところだろう。

コロナウイルスを巡る動向がこのまま改善に向かえばドル/ウォンにも下押し圧力がかわろうが、いまだ油断は禁物だと考えている。特効薬が開発されたわけでもない中での経済活動の再開は、感染の再拡大を招く可能性が否定できず、また原油価格の回復がなければ市場としても本格的なセンチメントの改善は困難だろう。

韓国では約240兆ウォン規模と年間GDPの10%程度の経済政策が計画されており、それが景気を下支えすることも考えられるが、現実的に効果が出てくるには数か月を要するだろう。

以上を勘案、様々な材料がセンチメントを振らし、もみ合う展開を基本線に予想したい。但し、センチメントが振れやすい状況は継続しており、突発的に上下に大きく振れる可能性もあるため、予断を持たずに臨みたい。

■ 今月のつぶやき(現地からの声)

『当地の飲料水事情』

韓国での飲料水は、基本的には日本と同様、あまり心配する必要はないと思っています。

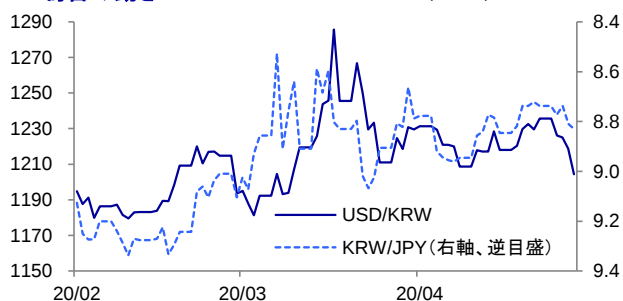
ごはん屋さんで出されるお水を飲んでお腹を壊したことはありませんし、なかにはランニングのトレーニング中に公園の水道水をいつものように飲んでいて、自分の子どもも飲んでるけど誰もお腹を壊したことない、というツワモノもありました。冬場は水道管が凍るから公園の大方の水道は止まるんだけど、トイレとか横の手洗い場の水は出続けるから、そこがポイントだな、と力説してもらいましたが、そこのお水を飲んでも大丈夫なのであれば、きっと大丈夫なのでしょう。そのツワモノ一家が鉄壁の内臓を持つ一家の可能性もありますが・・・(笑)

ちなみに観光で来る人などはやはり水事情に不安があるようです。こちらに観光に来た友人夫婦と一緒にボッサムという茹で豚料理を食べに行った際のこと、お店で出されたお水をまじまじと見て「この水は飲んでいいのか？」と聞かれました。ただ、その友人は質問する前に「生牡蠣」を率先して注文してるんですよね…。何を心配するかは人それぞれです(笑)ちなみに、水はもちろん、生牡蠣にも特段「当たらず」、その後も元気に仕事しておりました。

一般家庭にはウォーターサーバーや浄水器が普及しておりますし、スーパーでは2リットルの水が6～10本ぐらいで1セットにされて売っており、それを買っている人も多い認識ですが、上記のとおり、韓国の飲料水事情はさほど心配する必要はないかと思っています。

■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
4/1	輸出(前年比)	3月	0.7%	-0.3%	1.5%
4/1	輸入(前年比)	3月	1.6%	-0.2%	3.8%
4/1	貿易収支	3月	\$5454M	\$5037M	\$3792M
4/2	CPI(前年比)	3月	0.8%	1.0%	1.1%
4/7	経常収支	2月	-	\$6409.2M	\$1006.5M
4/9	BOK政策金利公表		0.75%	0.75%	0.75%
4/17	失業率(季節調整済)	3月	3.8%	3.8%	3.3%
4/23	GDP(前年比、速報値)	1Q	1.0%	1.3%	2.3%
4/28	消費者信頼感	4月	-	70.8	78.4

台湾ドル相場

予想レンジ: USD/TWD 29.50 ~ 30.20
TWD/JPY 3.45 ~ 3.70

東アジア資金部台北室 柴田 裕央

■ 先月の為替相場

4月のドル/台湾ドル相場は、ドル安台湾ドル高。

ドル/台湾ドルは30.300でオープン。月初は連休であったが、連休明けの4/6に4月の高値となる30.375を付けたものの、欧米での新型コロナウイルスの感染者数の増加が緩やかになったことからリスクオンの流れとなり、台湾株が上昇し、台湾ドル買いが優勢となり、ドル/台湾ドルは30.10付近まで下落した。

月半ばは米国の経済活動が早期に再開するとの期待で米株が上昇、つられて台湾株も上昇したことから、台湾ドルの流れとなり、一時29.9台に。30を下回る水準では、輸入企業等のドル買いフローも入り、台湾ドルの高値は押さえられ、30.05付近で推移。

月後半に入ると、特段材料のない中、30.05付近のレンジで推移が続いたものの、月末にかけては、輸出企業のドル売りや外国人投資家による台湾ドル買いが入り、台湾ドル高の流れに。特に海外からの資本の流れは止まらず、ドル/台湾ドルは30を割ると台湾ドル高が加速、一時約1年11か月ぶりの29.720まで低下。そのまま30を割って4月の取引を終えた。

■ 今月の見通し

5月のドル/台湾ドル相場は、ドル安台湾ドル高を見込む。

4月も新型コロナウイルス関連が材料となったが、各国の感染者数拡大の勢いが弱まったことや、ロックダウン解除にむけた動きから経済活動の再開への期待が高まり、株式市場を中心にリスクオンの動きとなっている。

一方、足許、新型コロナウイルスの感染者数が比較的少ない台湾でも観光業や飲食業等では経済に大きな影響を受けており、台湾の経済指標も悪化が見受けられる。ただ、外出制限まで行わず、他国と比較すると経済活動が行われていることもあり、台湾株は堅調に推移している。

5月についても新型コロナウイルス関連が材料とみるが、各国の封鎖緩和による経済活動の再開への期待からリスクオンの流れのドル安台湾ドル高を見込む。ロックダウン解除後も感染者数を抑え込めるかが成功/失敗の判断になるが、これには時間を要するため、期待が先行すると思われる。ただし、解除と共に新型コロナウイルスの感染者数が再度増加となれば、リスクオフとなる展開についても警戒しなければならない。

■ 今月のつぶやき(現地からの声)

『当地の飲料水事情』

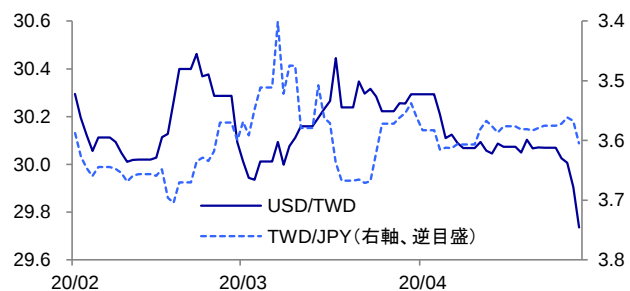
当地の飲料水としては、水道水をそのまま飲むことはしません。水質には問題がないのですが、蛇口までの経路にある水道管や建物の配管が古い場合や貯水槽が定期的に清掃されていないケースもあり、沸騰させてから飲んだり、お茶や料理に使うことが一般的です。なお、台北の水は軟水ですが、台湾の南に行くにつれて水の硬度は高くなっていきます。

外では、コンビニなどで気軽に買うこともできますが、駅などの公共施設に無料の飲料機が置いてあり、マイボトルがあれば飲料水を手に入れることができます。また飲料水専用の自動販売機もあり、大きなポリタンクを持参することになりますが、安く買えます。

旅行に来られる際は、簡単に手に入る、値段も高くないペットボトルの飲料水を買われることをお勧めします。

■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
4/7	外貨準備高	3月	-	480.39B	479.68B
4/8	CPI(前年比)	3月	-0.10%	-0.01%	-0.19%
4/8	輸出(前年比)	3月	-2.2%	-0.6%	24.9%
4/8	輸入(前年比)	3月	-4.8%	0.5%	44.7%
4/8	貿易収支	3月	3.45B	2.78B	3.30B
4/20	輸出受注(前年比)	3月	-7.8%	4.3%	-0.8%
4/22	失業率	3月	3.80%	3.76%	3.70%
4/23	鉱工業生産(前年比)	3月	5.40%	10.41%	20.69%
4/30	GDP	1Q	1.70%	1.54%	3.31%

(資料) ブルームバーク

香港ドル相場

予想レンジ: USD/HKD 7.7500 ~ 7.7700
HKD/JPY 13.60 ~ 14.10

東アジア資金部 Ken Cheung

■ 先月の為替相場

【4月の香港ドル直物相場】

4月の香港ドル相場は、約4年振りに香港ドル高の取引バンド上限となる7.7500まで上昇、HKMAは米ドルペッグ制を維持するため2015年10月以来の香港ドル売り為替介入を実施した。結果として、為替介入を通じて200億香港ドル以上の流動性を市場に供給した。香港ドル-米ドルの金利差と株式市場への資金流入が、香港ドルの強さの主な要因となっている。事実、香港ドルフォワードレートはHKMAによる流動性供給後もカーブ全般に底堅く、1年物香港ドルフォワードポイントは+150ポイント付近で推移している。今年に入ってから香港株式市場へのストックコネクトを通じた資金流入は、過去2年間の同時期を大幅に上回っており、人民元香港ドルのクロスレートは過去最低水準の1.09レベルとなっている。一方で、香港の労働市場は新型コロナウイルス発生後に悪化し続けている。3月の失業率は3.7%から4.2%へと9年ぶりの高水準に達した。香港政府は第2弾の経済対策を発表し、従業員を解雇しないと約束した企業に給与支払いの補助金を支給する事を決めた。このような景気刺激策により、香港の財政赤字は今年度約10%近くに拡大する見込みであり、フィッチ社は香港の格付けをAAからAA-へと一段階引き下げた。

【4月の香港ドル金利市場】

4月の香港ドル金利は、米ドル資金需要の後退を受けた米ドル金利の低下に追随し低下。香港ドル-米ドルの金利差は、米ドル市場と比較して逼迫した香港ドル市場の流動性状況を反映している。1か月物と3か月物の香港ドル-米ドルの金利差はそれぞれ90bpと70bpまで拡大し、香港ドル直物相場を7.75の取引バンド上限まで押し上げる一因となった。香港ドルの流動性状況を測る指標であるアグリゲートバランスは、HKMAによる為替基金証券(EFB)の減額措置を通じて、今後数週間のうちに540億香港ドルから840億香港ドルを上回る水準に増加する。また、米国経済の停滞懸念により、FRBは金融政策の正常化を遅らせるとの見方から香港ドル金利スワップレートと米ドル金利スワップレートは低下した。

■ 今月の見通し

【5月の香港ドル直物相場】

5月の香港ドルの取引レンジは、7.7500-7.7700と予想する。HKMAによる流動性供給措置により香港ドル金利が低下し、香港ドル-米ドルの金利差が縮小するまで、香港ドル高の取引バンド上限付近での推移が続くと考えている。HKMAによる流動性供給措置実施後も、香港ドル-米ドルの金利差は維持されており、フォワードレートはカーブ全般底堅い。引き続き米国との金利差に着目したキャリートレードによる香港ドル需要が、香港ドル相場を取引バンド上限へと押し上げ続ける。グローバルに金融市場が安定化する中、香港株式市場でのIPO需要も回復し、ストックコネクトを通じた資金流入も足元の香港ドル需要を押し上げている。一方で、香港政府の財政赤字は2020年度に10%近くに急拡大し、今後数年間も財政赤字が想定されている。このことは、香港の外貨準備の縮小を示唆しており、米ドルペッグ制度の安定性が損なわれる可能性がある。香港の更なる格下げリスクや、高騰する資産価値、政情不安に対する懸念などが、香港ドル市場への今後の資金流入の妨げとなる可能性があり、中期的に7.80レベルまで香港ドルは低下すると見ている。

【5月の香港ドル金利市場】

5月の香港ドル金利は、米ドル金利の低下とHKMAによる流動性供給によって、さらに低下すると予想する。米ドル資金需要が幾分か後退したことで、米ドルLIBORは再び低下傾向となり、香港ドルHIBORを押し下げる展開となっている。重要なことは、HKMAが為替基金証券(EFB)の発行額を減額するなど、金融政策をハト派に転換したことである。これにより、香港ドルの流動性供給のペースは、米ドルペッグ制度の下でも加速することとなる。アグリゲートバランスは第2四半期末には1000億香港ドル以上にまで増加するだろう。香港ドル金利スワップレートのカーブは、米ドルペッグ制度の下、米ドル金利スワップレートのカーブに追随する可能性が高い。コロナウイルスの発生による米国経済の深刻なダウンサイドリスクなどの先行き懸念を考慮すると、FRBが金融政策を正常化する可能性は当面の間は低いと考えている。

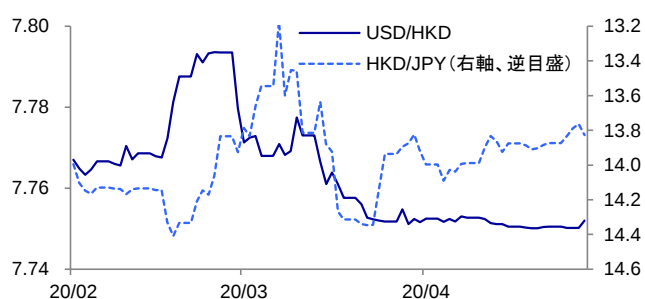
■ 今月のつぶやき(現地からの声)

『当地の飲料水事情』

香港は水資源に乏しく、自国での水の供給に限られているため、水源の一部を中国本土に依存しています。政府は貯水池に雨水を貯める一方で、中国本土から水を購入しています。浄水処理は施されているものの、香港の人は水道水を直接飲むことはなく、煮沸処理を行ってから飲用しています。市販の蒸留水やミネラルウォーターにはたくさんのブランドがあり、種類も豊富です。気軽にスーパーやコンビニで飲料水を買うことが出来るため、香港人には水筒を持ち歩く人があまりいないです。

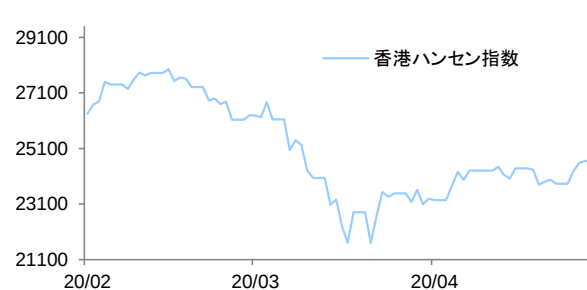
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
3/31	小売売上高(価額、前年比)	3月	-40.3%	-44.0%	-21.5%
4/3	日経香港PMI	3月	-	34.9	33.1
4/7	外貨準備高	3月	-	\$437.5b	\$445.7b
4/20	失業率(季調済)	3月	4.0%	4.2%	3.7%
4/23	CPI(前年比)	3月	1.8%	2.3%	2.2%
4/27	貿易収支(HKD)	3月	-38.5b	-34.7b	-38.6b
4/27	輸出(前年比)	3月	-10.0%	-5.80%	4.3%
4/27	輸入(前年比)	3月	-13.5%	-11.1%	-0.1%

中国人民元相場

予想レンジ:	USD/CNY	6.9000	~	7.2000
	CNY/JPY	14.58	~	16.09
	100JPY/CNY	6.2200	~	6.8600

みずほ銀行(中国)有限公司 中国為替資金部 矢野 慧

■ 先月の為替相場

【為替相場】

4月のUSDCNYは下に往って来いの展開。

月の前半は新型コロナウイルス感染拡大ペース鈍化への期待感からドル安人民元高が進行。欧米で新型コロナウイルスの感染拡大が落ち着きつつあると示された事や、米FRBが2.3兆ドルの資金供給を行うと伝わりドル売りの流れが強まり、USDCNYは7.10付近から一時7.04を下回る水準まで下落。

その後、中国人民銀行(PBOC)がMLFの適用金利を20bp引き下げた事を受け、金融緩和の思惑が広がり、USDCNYは反転。更に17日発表された第1四半期GDPが▲6.8%と、市場予想の▲6.0%を大きく下回る結果となったことも元売り材料となり、7.08付近へ。その後元安水準に設定されたPBOC仲値に引き上げられる形で一時7.10付近まで水準を上げるも、月末に掛けでは各国政府が新たな景気対策を検討する中、経済活動再開の兆しが見えてきた事で、7.07台に水準を戻している。

【金利相場】

預金準備率・超過準備付利金利引き下げを受けて金利低下

3日、中国人民銀行(PBOC)は預金準備率引き下げ及び超過準備の付利引き下げを発表。預金準備率引き下げにより、2,000億円の流動性が供給された事に加えて、資金市場のO/N物金利の理論的下限である、超過準備の付利が引き下げられた事で、ターム物を含めて金利低下圧力が強まった。更に15日に実施されたMLFによる1,000億円の資金供給では適用金利を3.15%から2.95%へ引き下げ。金利低下は継続し、Shibor1年物は一時過去最低水準である1.67台まで低下した。20日にはローンプライムレート(LPR)の発表があり、LPR1年物で▲20bp(4.05%)、LPR5年物で▲10bp(4.65%)となったものの、事前予想通りであり、市場への影響は限定的となった。

■ 今月の見通し

【為替相場】

5月のUSDCNYは堅調推移と予想。

新型肺炎の世界的な感染拡大を受けて、主要先進国の経済活動が停止する中、中国は先行して感染拡大の山場を越えていたこともあり、市場の不安を背景にボラティリティが急拡大する中においても、人民元は相対的に安定して推移した。

延期されていた全人代は5月下旬に開催予定であり、経済成長目標や具体的な財政刺激政策に注目が集まっている。既に財政赤字容認や特別国債発行を決定しており、一段と財政による支援措置が拡大されると思われる。金融政策においては、PBOCが流動性供給拡大や、各種金利引き下げを実行しており、一段と金利低下を促す可能性はあれど、各国も緩和スタンスを取っており、一方的に人民元安が進むとは考えづらいだろう。経済活動の正常化や、ドル需給逼迫も解消された中、元高圧力が強まるシナリオを予想する。

【金利相場】

金利は低位安定推移を予想。

5/15に発表済である預金準備率引き下げが実施されるなど、引続き潤沢な流動性が維持されるだろう。新型肺炎の拡大を受けて、各国中銀が緩和的なスタンスを取る中、PBOCも流動性供給、各種金利引き下げを実施するなど、各国中銀に追随している。足許では金利は下げ止まりつつあり、人民元金利は同水準での安定推移を予想する。

■ 今月のつぶやき(現地からの声)

『当地の飲料水事情』

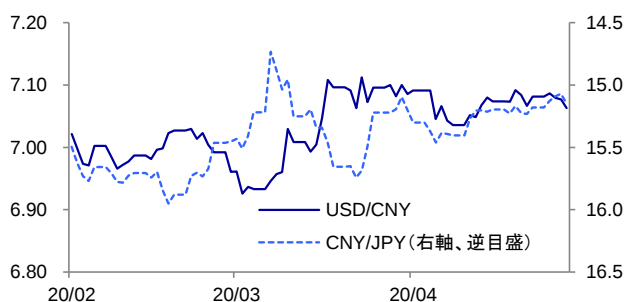
中国では基本的に水道水をそのままは飲みません。少し前にはなりますが、中国環境保護部が実施した水質調査によると、「飲料できる水源」は中国の水全体のたった2.8%だったようです。つまり中国生活でペットボトル飲料水は必要不可欠。実際に現地スタッフは、浄水した水道水でも直接飲むことはまず無いと言っていました。

飲料水と言っても、全て同じではなく、マグネシウムやカルシウムの含有量によって「軟水」と「硬水」に分けられるのは有名な話です。水1リットルに対して、含有量が120mg以下が軟水、それ以上は硬水。大抵は国によって軟水、硬水のどちらかであり、日本の水は軟水(硬度平均50mg-60mg)なので、硬水の国に行くと、お腹を壊したりする事もありますが、そこはさすが、国土の広い中国。中国国内で軟水、硬水両方とも採れるよう。北京周辺では硬度360mgの硬水、中国南部を流れる長江沿岸は硬度100mgの軟水となっています。近年、流通もすごい勢いで発達しており、ボタン一つでその土地の水が購入可能。ちなみに私は南部広東省が水源である軟水を購入して飲んでいました。「百岁山(Ganten)」というブランドであり、一時期はイタリアの有名サッカーチームユベントスやテニスの国際試合である全豪オープンのスポンサーになっていたりで、ご存知の方もいるかも知れません。

日本からの輸入品も売っており、水道水が飲めなくても困ることはありません。ただ一つだけ注意が必要なのは、ペットボトル飲料水にも稀にニセモノが混じっていること。買う時にフタが空いていないかは要チェックです。

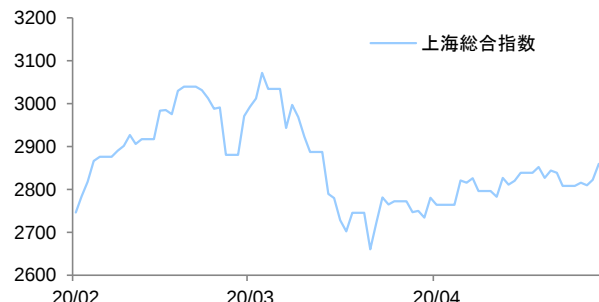
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
4/1	財新・製造業PMI	3月	45.0	50.1	40.3
4/3	財新・サービス業PMI	3月	39.0	43.0	26.5
4/10	CPI(前年比)	3月	4.9%	4.3%	5.2%
4/10	PPI(前年比)	3月	-1.1%	-1.5%	-0.4%
4/17	GDP(前年比)	1Q	-6.0%	-6.8%	6.0%
4/20	LPR(1年物)	3月	3.85%	3.85%	4.05%
4/20	LPR(5年物)	3月	4.65%	4.65%	4.75%

シンガポールドル相場

予想レンジ: USD/SGD 1.3800 ~ 1.4400
SGD/JPY 74.50 ~ 77.00

アジア・オセアニア資金部 成田 隼基

■ 先月の為替相場

2020年4月のシンガポールドル (SGD) 相場は、小幅にSGD高が進行。

USD/SGDは1.42台の水準でオープン後、月初はややUSD買い優勢に推移。引き続き新型コロナウイルス感染拡大による世界経済の後退懸念が燃る中、投資家のリスク回避姿勢が続き、新興国通貨は弱含む展開。USD/SGDは一時、1.44台前半の水準までSGD安が進行。

7日、新型コロナウイルスの感染拡大につき、米国の複数州で鈍化が見られたことや、欧州での死亡率低下などが相まって、全世界的に株価が上昇。新興国通貨は堅調推移となった。その後、FRBによる2.3兆ドル規模の追加支援措置が発表されるとUSD売りが加速し、USD/SGDは1.41台前半の水準まで下落した。

しかしそうした勢いは長くは続かず、月半ばにかけて米国の経済指標が軒並み記録的な落ち込みを示し、原油先物価格も再び30ドルを下回るなどの悪材料が続いた結果、USD買い優勢に推移。17日、トランプ米大統領より新型コロナウイルス感染拡大で打撃を受けている米経済の再開に向けた指針が表明されると一時的にリスクオンの向きが強まるも、5月渡しのWTI原油先物価格の急落や株価下落などを受けて、SGDは軟調推移となった。USD/SGDは1.43台半ばの水準までSGD安が進行。

その後、月末にかけてはSGDは堅調推移となった。欧米各国でロックダウンの段階的な解除に向けた動きが見られたことから、経済活動の再開に向けた期待感が台頭。リスクセンチメントの改善に繋がった。USD/SGDは小幅に低下し、現在は1.41台の水準で推移している。月初対比でややSGD高が進行した格好となった(4月29日時点)。

■ 今月の見通し

2020年5月のシンガポールドル (SGD) 相場は、SGD高の進行を予想。

4月のSGDは、同国内の経済指標が弱い結果を示し、且つ同国内の新型コロナウイルス感染拡大の状況が悪化しているにも関わらず、小幅にSGD高が進行した。

これは、3月のUSD供給不安を背景とした新興国通貨⇒USDへの資金流入につき米連邦準備理事局(FRB)より対応策が講じられことや、欧米でのロックダウン解除期待によるリスクセンチメントの改善等が影響しており、結果的に4月のSGDは対USDのみならず、MYR, KRW, PHP, INR等に対し上昇し、新興国通貨の中でも特に堅調さが目立った。更なる経済支援措置を表明している米国の状況を踏まえれば、5月も引続き、SGDの堅調推移が継続するものと予想する。

しかし、相場への影響は限定的とはいえ、シンガポール経済の見通しが芳しくない点には触れておきたい。4月28日、MASは従前に発表していた「今年のシンガポール経済は後退する」との見通しを改めて強調。サプライチェーンの混乱、多くの国で課されている渡航制限、需要の急激な減少などが重なったことが要因と説明の上、2020年の国内総生産(GDP)成長率見通しは前年比▲4.0%～▲1.0%で着地するとの見通しを示している。

こうした見通しに加え、同国経済指標が断続的に弱い結果を示す場合、本来は半期に一度(4月、10月)開催であるMAS会合を3月のように臨時・前倒しで実施の上、一段の金融緩和に踏み切る可能性もある。引き続き、動向を注視したい。

■ 今月のつぶやき(現地からの声)

『当地の飲料水事情』

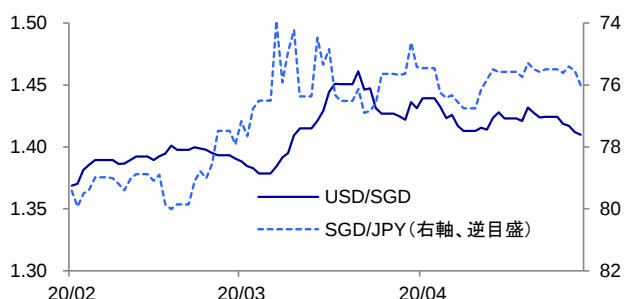
広く認知されている情報と存じますが、当地の水道水はとても清潔でございます。高い基準での水質検査をクリアしており、そのまま飲料水として利用することも問題ないとしております。どちらかと言えば各家庭・各飲食店に届くまでの水道管や貯水タンクの衛生管理が重要となることから、食事をされる場所や環境によりご判断頂き、少し不安だ…と思われる場合には水道水を飲まないようにされたり、一度沸騰させてから利用されれば、まず体調を崩すことはございません。現地の方々もそうされているようです。

また、国土が大きいこともシンガポールの特徴でもございまして、水の確保については隣国マレーシアからの輸入や下水のリサイクル、海水の淡水化などの方法により確保。そして浄水技術が磨きに磨かれた結果、今日のような環境が生み出されたということです。結論、当地では必ずしもミネラルウォーターをご購入頂かなくとも、水道水を飲むという選択肢を採ることが出来ますため、飲料水の確保は比較的容易、と言えるでしょう。

しかしこれは嘘か真か、2年も当地に住みながら曖昧な情報で恐縮なのですが、当地の水道水には「フッ素」が含まれているとの情報が。国民の歯の健康を折っての措置とのこと。確かに当地に来てから虫歯は一切増えておらず、この措置が真実であるとしたら、こうした方針に対し深く感謝させて頂きたいです。

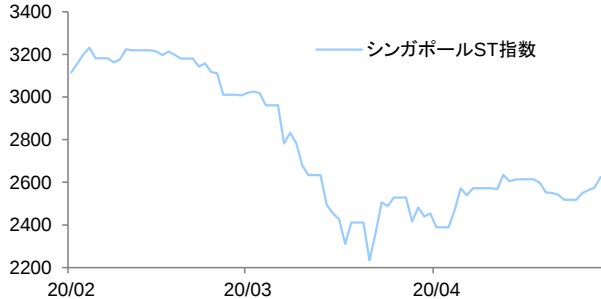
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
4/3	購買部景気指数	3月	47	45.4	48.7
4/3	小売売上高(前年比)	2月	-8.4%	-8.6%	-5.3%
4/17	非石油地場輸出(前年比)	3月	-8.0%	17.6%	3.1%
4/23	CPI(前年比)	2月	-0.2%	0.0%	0.3%
4/24	鉱工業生産(前年比)	3月	-4.9%	16.5%	-0.7%
4/29	失業率	1Q	2.6%	2.4%	2.3%

タイバーツ相場

予想レンジ:

USD/THB 31.50 ~ 33.00
THB/JPY 3.15 ~ 3.35

アジア・オセアニア資金部 バンコック室 山崎 浩幸

■ 先月の為替相場

上旬は33.15付近からのバーツ高進行。3月の後半にタイでは非常事態宣言が発令され、COVID-19の新規感染者数が連日100人を越える水準で増加したこと、3月末にかけて急激に上昇。また、3月末に発表されたタイ中銀の経済見通しが非常に弱かったことや、観光業の景況感が9年ぶりの低水準に落ち込んだことなどからバーツ売りが加速一時33.16まで上昇。その後はサウジがOPEC+緊急会合開催のヘッドラインに原油先物が上昇すると主要株式が持ち直す中で、33台を割込んだ。週が変わって6日に入ると、欧米でCOVID-19の死者の増加数が横這いとなったこと等を含めたCOVID-19を巡る状況緩和の期待からじりじりと下落が続き、激しい値動きが続く週末10日にかけて32.60台半ば付近まで値を下げた。中旬に入り、ドルバーツは横這い推移が続いた。タイ3月消費者信頼感指数や第1四半期の外国人旅行者数等、劇的に悪化した数値が相次いで発表されるも、タイにおいては感染増加数等が比較的安定していることや、当初の予定ではソンクラン休暇が予定されていた期間でもあり、15日までは大きな値動きにはつながらず30.60台から70台付近での値動きが続いた。16日に入ると、タイではプラユット首相が5月以降、各種措置の緩和の可能性を模索するよう関係機関に指示したことが伝わると、再びバーツ高の流れとなった。米国の新規失業保険新鮮件数が大幅な伸びを示していることが嫌気され、上昇する場面もみせるが、米株の上昇などを背景にセンチメントが改善しバーツ高へ17日には一時32.50台を割込んだ。20日は前日19日にタイで約590億ドル相当の新型コロナウイルス対策法が承認されたことが好感されるも、非常事態宣言が延長される可能性が高いとの報道もあり、21日にかけて32.50付近での値動きが続いた。22日にはタイのコロナウイルス新規感染者数が3月14日以来の低水準に落ち着いたこと等を背景にバーツ高となり、翌23日にかけて32.30付近での値動きが続いた。ところが24日には期待されていた抗ウイルス薬を巡り治験が失敗したとの報道が嫌気され、アジア株式市場が軟調な展開となるとドルバーツも上昇し再び32.40台半ばに値を戻した。タイでは新規感染者数が減少の一途を辿る中で、迎月末にかけて経済活動を巡る様々な規制の緩和を期待する声も聞かれたが、政府からは二次感染を防ぐ目的から再び5月末まで現行の非常事態宣言の状況を延期すると発表された。相場への影響は限定的で引続き32.40台での値動きが続いている。

■ 今月の見通し

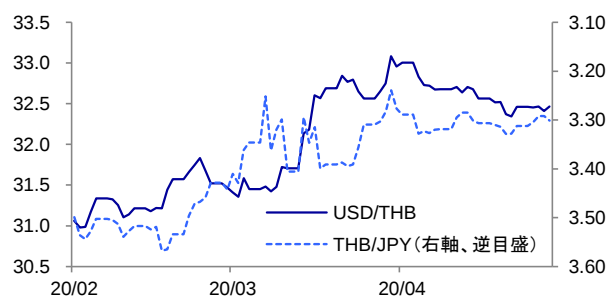
結局、COVID-19次第という相場展開が続いておりますが、4月末のこの時点ではどうやらCOVID-19の世界への影響は、感染地域でのロックダウン等の隔離政策が功を奏し、感染増加数の増加(引続き増加し続けている)にどうやら歯止めをかけることに成功しつつある模様です。増加の増加が止まった時点でロックダウンの段階的な解除等の話がでてきておりますが、このまま解除して再び第二波、第三波が懸念されます。このウィルスに対して、知識が積みあがっていることを勘案し、約1-2ヶ月前とは違うといえそうですが、果たしてどうでしょうか。タイでは1日の新規感染増加数が一桁になった今でも、非常事態宣言の1ヶ月延長を決定しました。世界を見回したときに、タイ国解除してもということはあるかも知れませんが、やはり慎重に対処していくことが求められることからこれもやむを得ないものと考えます。一方で、危惧する対象がCOVID-19よりも経済へのインパクトへ移行しつつあります。経済が巨大であればあるほどロックダウンのインパクトが大きく、各種支援を行うための負担にどこまで耐えられるのか、既に我慢比べが始まっているように見えます。さて、5月のタイバーツについては、やや下方向を予想します。先行きが見えない中、ロックダウンの解除とともにリスクオンの相場動向となり、バーツ高方向への値動きとなろうかと想定しております。加えて、タイは周辺諸国、欧米と比べ新規感染者の増加幅が少なく、経済への影響が抑えられると期待できる点もバーツ高要因となりえるのではないかと考えます。一方で、輸出と観光に支えられた経済は、当面内需頼りとなろうかと考えられ、極端なバーツ高にはなりづらいものと予想し、やや下方向かと考えております。一方で、COVID-19次第という相場に変わりは無く、引続きその感染拡大動向によって相場の方向感が変わってしまうという点には当面注意が必要です。

■ 今月のつぶやき(現地からの声)

【当地の飲料水事情】
タイでは水道水はそのまま飲むことができないので、飲料水は水道以外、もしくは浄水器を設置することで、飲料水に変えています。サーバーを設置していたり、または水を量販品店で購入したりすることで、手に入れます。この量販品店で売っている飲料用の水は、単純なDrinkingWaterとして売っているものだと、500mlのペットボトルが安いもので7bath(23円)くらいです。一方でミネラルウォーターも売っているのですが、こちらは、安いものからインポートものの高いものまでありますが、安いもので10bath(約35円)くらいから売っています。タイへ赴任する際にタイの水道水には気をつけるとよく言われ、果ては飲み物に入っている氷にも気をつけると言われたのを良く覚えています。飲み物自体はOKでも、水道水で作った氷だと、結局は水道水を飲んだのと同じなため。どのように気をつけるのかといえば、氷の真ん中に穴が入っているものが製氷業者が製造したものの為、安心できるとの事。また、聞くところによると、野菜を洗う水、歯を磨く際の水、そういった飲み水以外に使用されるものの、口に一旦入る水は全て度りんキングウォーターを使っているという人もいます。そんな中、とある赴任者は着任以降、水道水の水を飲み続けているという猛者が現れました。そのものの曰く、全く体調に変化は無かったし、危ないという認識が無かったとのこと。実は大丈夫なのかと思いつつ、一度腹痛を起こすと、しばらく復帰が困難なことになりかねません。危ないので絶対にまねはしないようにしましょう。

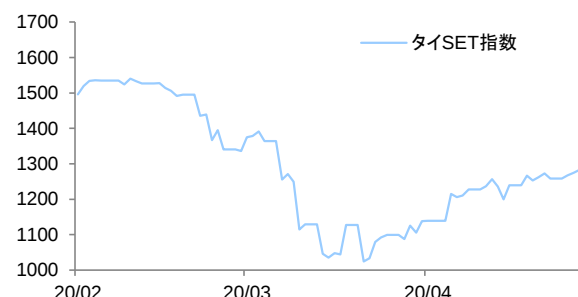
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
4/1	製造業PMI	3月	-	46.7	49.5
4/7	CPI	3月	-0.55%	-0.54%	0.74%
4/7	CPIコア	3月	0.53%	0.54%	0.58%
4/9	消費者景気信頼感指数	3月	-	50.3	64.8
4/21	輸出(通関ベース、前年比)	3月	-5.80%	4.17%	-4.47%
4/21	輸入(通関ベース、前年比)	3月	-8.00%	7.25%	-4.30%
4/23	新車販売台数	3月	-	60,105	68,271

マレーシアリング相場

予想レンジ:	USD/MYR	4.2900	~	4.4100
	MYR/JPY	24.40	~	25.00
	JPY/MYR	4.0000	~	4.1000

マレーシアみずほ銀行 関上 伸一

■ 先月の為替相場

4月のUSD/MYRは、新型コロナ対策の活動制限が継続し市場参加者が限定的となる中、4.28～4.40のレンジでボラタイルに推移した。

月初4.30台でオープンしたUSD/MYRは、世界的な金融政策緩和が継続する中で4.28迄下落するも、結局ここが月間安値。2日に世界の新型コロナ感染者数が百万人に到達する勢いを受け、再度4.40手前迄の反騰するボラタイルな展開。FTSEラッセル世界国債インデックスの構成銘柄に馬国債が残ったことから4.34に一時緩むも 3日にマレーシア中銀が発表した年次報告で2020年GDP成長率見通しが▲2.0～+0.5%へ下方修正された事を受けて再度4.37台に反発。6日月曜に中小企業支援を主眼とするMYR10bln規模の景気刺激策第三弾をムヒディン首相が発表するも市場の期待感に届かず、再度4.39迄上昇。しかし米国の景気刺激策承認と中国人民元の反発、原油反発がMYRの追い風となる中、9日にFitchがマレーシアのソブリン格付見通しをStableからNegativeに引下げたものの、長期債務者格付自体はAマイナス格据置きを発表。USD/MYRは10日に4.30レベル下落。

中旬には原油下落の加速に連れ、再度反転。17日発表の中国第一四半期GDPと3月小売売上高の大幅悪化が、ロックダウンに踏み切った国の道標になるとの見方から、USD/MYRの上げを助長。20日月曜にWTI先物5月限は、過去に例の無いマイナス圏に突入し▲\$40/bblの史上最安値を付けると、ブレントも中銀が想定する\$25～35/bblの価格レンジを割込んで下落。USD/MYRも再度4.40手前に達した。

然し下旬にかけては、日々の新型コロナ新規感染確認者数が100名を下回り続ける中、USD/MYRも4.40レベルのクリアな上抜けを失敗後、23日に4.34台まで反落。米新規失業保険申請件数が歴史的な高水準に達する中、政府は5月12日迄の2週間の活動制限令延長を決定。USD/MYRは4.37レベルで5月に渡る。

■ 今月の見通し

5月のUSD/MYRは4.29～4.41のレンジでの推移を予想。新型コロナウイルスの世界的な感染拡大が継続する中で、原油価格は歴史的な下落。マレーシア政府も都合8週間となる5/12迄のロックダウン継続を決定した。しかし、FTSEラッセルの馬国債の世界国債インデックス構成銘柄継続決定や大手格付機関のソブリン格据置き決定、国内感染状況の不服感から、大幅なリングット下落リスクも緩和している。

マレーシア政府は3次に亘り、低所得者層や自営業者、中小企業に光を当てる形で、総額MYR260blnの新型コロナ対策景気刺激策を発表。総額は対GDP比17%の規模感ながら、所謂真水部分の財政支出はMYR35bln(同2.3%)であり、米国や、日本・シンガポールと比しても台所事情の厳しさが透ける。5/5の次回政策会合で中銀が2.50%から大幅利下げを決める可能性は高い。選挙なき政権交代後の初国会は5/18に招集も、1日のみの開催と与党事務局が通知。国会空白期間を6か月以上空けてはならないとする憲法への対応と見られるが、景気刺激策も審議に上らず、政局情勢は依然不透明感が残る公算が高い。

また現物受渡場所の貯蔵能力不足が露呈し先物価格がマイナス圏に転落したWTIが産油国協調減産の不十分さを審らかにすると、当地指標のブレントも4/3中銀年次報告での予想レンジ\$25～35/bblを下抜けて急落。ザフル財務相も油価情勢によっては政府予算の歳出を見直す可能性を示唆している一方、石油公社は財政を勘案し、政府への配当増額を検討中とも伝わる。

一方で、FTSEラッセルは馬国債の世界国債インデックス構成銘柄への残留を4/2に決定。油価急落後に懸念が高まったソブリン格付も、S&PとFitchはAマイナス据置きを決定。Fitchは見通しをネガティブに引下げたが、発表後MYRは買い戻され、目先の大規模な資本流出懸念はやや一服と映る。

マクロ環境からMYRは積極的な買い材料に依然乏しく、USD/MYRは高値圏での推移が続く公算が高いが、コロナ収束も近く上値も限られよう。

■ 今月のつばやき(現地からの声)

『当地の飲料水事情』

マレーシアは水が豊富な土地柄で、シンガポールも上水の多くを当地ジョホールの水源に依存している。それでも他の海外と同様に、派遣者の家庭ではミネラルウォーターや浄水器を用いるのが一般的だ。といっても、3年半以上駐在している筆者も、派遣者や出張者で水にあたってという話を聞いたことがなく、風呂や嗽は水道水で問題ない。

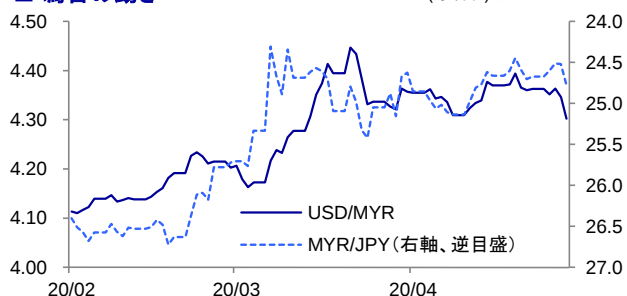
コンビニやスーパーでもミネラルウォーターが多く並んでおり、家庭へのデリバリーサービスも充実している。空港や地下鉄の駅にもコンビニが充実。加えて、フルーツジュースのスタンドも多いのがマレーシアの特徴。トロピカルフルーツジュースのラインナップが潤沢にあるのは南国の矜持だ。

マハティール前政権は2018年11月に発表した政府予算案で、総じて肥満度が高い国民性を踏まえて、2019年4月からの砂糖税の導入を決定した。しかしこの1リットル当たり0.4リンギット(約10円)の間接税の適用について、カーボン飲料は100ml当たり5g以上を課税基準とした一方で、フルーツジュースについては同12gと基準を違え、果糖には寛容な姿勢を示した。

飲料水は問題なく安価に手に入るの、活動制限令が明けたら、出張等でも是非お試し下さい。ただし、住民は活動制限令中に肥満度が上がっている可能性大で、税強化が心配ですが。

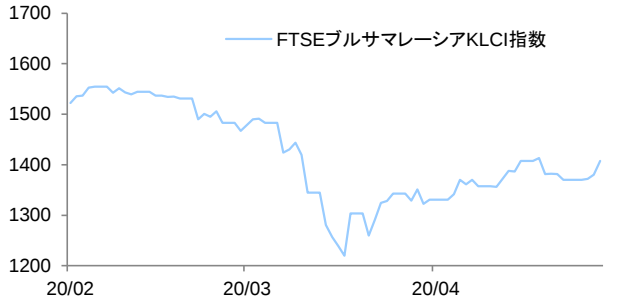
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
4/3	Trade Balance (MYR)	Feb	11.0B	12.6B	12.0B
4/3	Exports	Feb	0.3%	11.8%	-1.5%
4/3	Imports	Feb	0.1%	11.3%	-2.4%
4/7	Foreign Reserves	31-Mar	-	101.7B	103.0B
4/13	Industrial Output y/y	Feb	0.9%	5.8%	0.6%
4/22	CPI y/y	Mar	-0.1%	-0.2%	1.3%
4/22	Foreign Reserves	15-Apr	-	102.0B	101.7B

インドネシアルピア相場

予想レンジ:

USD/IDR 14900 ~ 16100
 IDR/JPY 0.65 ~ 0.71
 JPY/IDR 140.85 ~ 153.85

(注) 100インドネシアルピアあたりの対円レート

アジア・オセアニア資金部 田才 雄

■ 先月の為替相場

4月のドルルピアは、3月の急激なルピア安から大きく反発した。ドルルピアは月初1日、16300台前半でオープン。東南アジア地域でも新型コロナウイルス感染が拡大する中、投資家のリスク回避姿勢は続き、ルピアは安値圏での推移が続いた。インドネシアのスリ・ムルヤニ財務相は、ルピアが17500から20000まで下落する予想を示した。これに対し、インドネシア中銀ペリー・ワルジヨ総裁は、現在のルピア相場は適切と述べるなど、ルピア安を警戒する姿勢を示した。リスク回避ムードの中、翌2日に月内の最安値となる16500台半ばまでルピアは下落。その後も16400台から16500台の安値圏での推移が続き、6日には再び16500台半ばまでルピア安が進行した。だが、7日にインドネシア政府が新型コロナウイルス対策の為の資金を集める為、パンデミック債を発行。更に、インドネシア中銀が米連邦準備理事会(FRB)との間で600億ドルのレポ取引枠を確保したと発表したことで、ドル供給不安が一段と後退した為、16100台前半までルピア高が進行した。この流れが継続し9日には15800近辺までルピア高が進んだ。

月中旬、13日も前週の流れを引き継ぎルピアは堅調に推移し、15600台前半までルピアは続伸した。翌14日、注目されたインドネシア中銀政策決定会合では、政策金利である7日間物リバースレポレートは4.50%に据え置かれ、商業銀行の預金準備率を200bp引下げを決定。政策金利について市場参加者は追加緩和と据え置きとで予想が割れていた中での決定であったこともあり、ルピアは堅調地合を維持し、翌15日には15500近辺までルピア高が進んだ。16日にはこれまでのルピア高の反動から再び15700台半ばまでルピアは反落。しかし、この日の海外時間に、トランプ米大統領が経済の再開に向けた指針を明らかにしたことで、投資家心理が改善。ルピアは15300台半ばまで大幅上昇した。20日に大手格付け会社がインドネシアの格付け見直しを安定的からネガティブに変更するも、ルピアへの影響は限定的に留まった。

月下旬の21日には前日海外時間に原油価格が暴落したことを受けてリスク回避姿勢が強まる中、ルピアは上値重く推移。22日には再び15500台半ばまでルピアは反落した。月末に向けて15400を挟んで方向感が出難い時間帯が続いたが、先進国で新型コロナウイルス感染拡大の勢いが衰える中、経済活動再開に対する期待感から投資家心理が改善した。29日にはドル売りの流れから15200台半ばの月内高値を示現した。(29日終値現在)

■ 今月の見通し

5月のドルルピアはルピア安を警戒したい。

前月は予想外にルピア高が進んだ。3月の急激なルピア安は、ドル供給不安を背景に、海外投資家によるインドネシア国債からの急激な資金流出が主因であったが、前述の通りFRBがインドネシア中銀向けにレポ取引枠を設ける等、矢継ぎ早に対策がなされ、不安は後退しており、ルピアが下支えされることは否定はしない。4月24日までの海外投資家によるインドネシア国債保有額は3月末対比でほぼ横這い推移となり資金流失が止まっている。だが、東南アジア各国で都市封鎖政策が延長される等、経済活動再開の目処はたつておらず、過度に楽観的になるべきではない。寧ろリスク回避姿勢が急激に強まる可能性は十分にあり、まだ900兆ルピアを超える海外投資家によるインドネシア国債保有額はそれだけ売り込まれる潮代があると警戒すべきだろう。

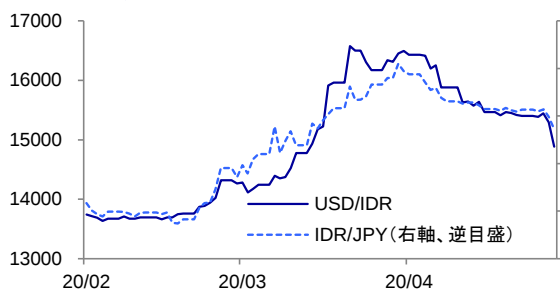
リスク回避姿勢が強まるきっかけの一つとして、各国で財政出動が相次ぐ中、財政悪化に焦点が当たり始めていることは気がかりな材料だ。インドネシアの格付けもネガティブに引き下げられた。1段階の引き下げが実施されるだけでは投資適格を直ちに失うことはないが、更なる格下げの可能性が意識されることとなればインドネシア国債売りにつながる可能性がある。また、原油の大幅下落も気がかり。長期化すればエネルギー関連企業の業績悪化から経済全体へ悪影響が波及する恐れがある。原油下落はインドネシアの様な輸入国には本来ポジティブな材料となるが、経済悪化に拍車をかける要因となると、ルピア下落の遠因となる。

インドネシアの貿易収支は輸出入とも小幅な減少に留まった上、3月も7.4億ドルの黒字となり、2ヶ月連続で大きく黒字を計上した格好。一方で1-3月期の直接投資の流入額は前年同期比で9.2%の減少となった。新型コロナウイルスの流行が投資を遅らせている可能性もあり、こうした傾向が続くと、貿易収支改善による経常収支改善にも拘らず、国際収支改善に繋がらないことも考えられ、引き続きルピアを取り巻く環境は厳しいものとなる。

以上から、5月も先月の流れが続き、ルピア高地合いが続くのは難しいと考える。リスク回避姿勢の強まりに端を発した、ルピア安を警戒すべきだろう。

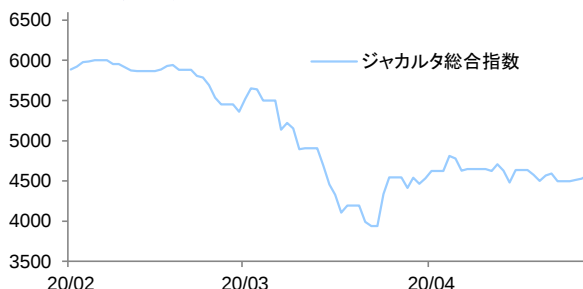
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
4/1	CPI (前年同月比)	3月	2.92%	2.96%	2.98%
4/7	外貨準備高(USD B)	3月	-	120.9	130.4
4/14	BI 7days リバースレポ金利	-	4.25%	4.50%	4.50%
4/15	貿易収支(USD M)	3月	800.0	743.0	2,513.0
4/15	輸出 (前年比)	3月	-5.49%	-0.20%	11.99%

フィリピンペソ相場

予想レンジ: USD/PHP 50.00 ~ 52.00
PHP/JPY 2.08 ~ 2.14

アジア・オセアニア資金部 マニラ室 樋上 陽一

■ 先月の為替相場

月初のドルペソ為替相場は1米ドル＝50.70ペソで取引開始。月初は原油価格の反発、中国3月製造業購買担当者景気指数が市場予想を上回ったこと、米金融当局のドルの流動性供給でアジア通貨は対ドルで買圧力が強まり、ペソも強含みとなった。

OPECプラスの会合で原油の減産交渉が難航しているとの報道や首都マニラ封鎖が4月30日まで延長されるとペソは軟調推移する局面もあったが、イースター祝日前(8日)の取引は1米ドル＝50.585ペソで終えた。

ペソを支えた背景には比3月消費者物価指数は2.5%(前年同月比)となり2か月連続で鈍化、さらには8日の比2月貿易収支は輸入の減少で16.6億ドルの赤字となり、前月の35億ドルの赤字から大きく赤字幅が縮小したことが挙げられる。

イースター休暇(9、10日)中のオフショアのドルペソ為替相場は、FRBが最大2.3兆ドルを資金供給する、との報道に一時1米ドル＝50.50ペソを割り込んだが、休暇明け13日のオンショアドルペソ為替相場は、祝日前と同水準の1米ドル＝50.62ペソで出合い、その後月央は1米ドル＝50.60-70ペソを中心レンジとした取引に。

16日にフィリピン中銀(BSP)は緊急利下げを発表すると20日には4月2日以来のドル高ペソ安水準である1米ドル＝50.96ペソまで上昇。

しかしながら市場参加者が限定的な中ではドルの上値追いとはならず。世界各国がロックダウンから経済活動再開への舵を切る中で、29日の終値は1米ドル＝50.51ペソ。

■ 今月の見通し

16日のBSPの緊急利下げは5月21日に予定されていた金融政策委員会を前倒ししたもの。政策金利の翌日物リバースレポレートは3.25%から2.75%となり過去最低となった。

今回の金融緩和については、新型コロナウイルスの感染拡大抑制のために実施されているルソン島の「強化されたコミュニティ隔離(ECQ)」で影響を受ける産業への支援であることは言うまでもなく、BSPからは未曾有の危機の中でスピードの重要性と必要に応じて今後も緩やかな金融スタンスを取ることが明示された。

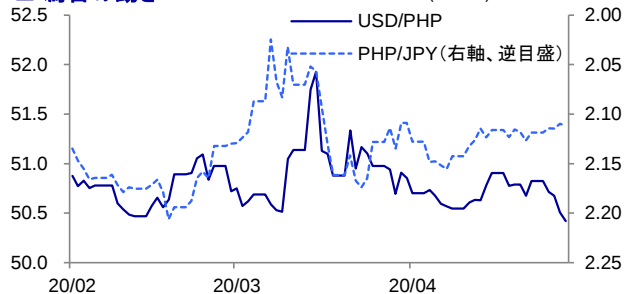
さて、4月末までの予定だったECQが5月15日まで延長されたことで厳しい環境が続くわけだが、感染リスクの低い地域では外出制限の一部が緩和されるとの報道があり、フィリピンも経済活動再開への出口を探り始めたのは事実であろう。

BSPとしては金融緩和を材料にドルペソ為替相場の水準をドル高ペソ安に誘導したいのではないだろうか。というも原油安、また輸入縮小によりペソ安バイアスは落ち着いている。2月の海外在留フィリピン人労働者(OFW)送金の発表はまだないが、3月、4月は大きく減少することは予想に難くなく、ECQ解除後にフィリピンのGDPの7割を占める個人消費を下支えするためにはペソ安が不可欠と考える。

足元のドルペソ為替相場は3月11日の直近ペソ高値である1米ドル＝50.465ペソ、そして1月14日に記録した年初来ペソ高値1米ドル＝50.37ペソが視野に入りそう。ただ閑散相場で取引高は通常の半分以下、方向感が出るかは疑問。ペソの底固さは米金融当局が先行して矢継ぎ早に行った米ドルの流動性供給によるものと整理。時期尚早ではあるが、巻き戻しのタイミングとペソの追加金融緩和、そしてBSPの思惑によるペソ安には注意するべきではないだろうか。

■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

発表日 イベント
上記参照

(資料) ブルームバーク

期間	予想	結果	前回

インドルピー相場

予想レンジ: USD/INR 74.00 ~ 78.50
INR/JPY 1.34 ~ 1.46

アジア・オセアニア資金部 インド室 田川 順也

■ 先月の為替相場

【4月の米ドル/インドルピーは史上最高値を更新後、水準を戻した】

5%以上のルピー安となった第一四半期を終え、76ちょうどで4月取引を開始。7日には当月安値となる75.54を示現するも、ドル/ルピーの安値では旺盛な買い意欲が確認される形で75台での滞空時間は短く、76へ戻されていく展開。その後、原油価格の上下動や、IMFが世界経済見通しを大幅な下方修正、米経済指標の悪化等の悪材料に16日には76.88までドル/ルピーは上伸。

OPEC+の減産合意後も、コロナによって世界需要はさらに減速するとの見方に原油価格が低調となるとドル/ルピーには上昇圧力となり、22日には史上最高値を更新し、76.92を記録。しかし、Facebookのインド通信大手企業に対する出資のヘッドラインにドル売り/ルピー買いフローが想起され、相場は反転。また、欧米でのコロナ感染者がピークアウトとの観測が強まったこともアジア通貨全体に対して支援材料となり76台前半でもみ合った後、29日執筆時点では75.65レベルでの取引となっている。

【4月のインドルピー/日本円は小動き】

1.412レベルでオープン。ドル/ルピーが上述のように当月安値までルピー高となる中、米国での感染者数の減少を好感して一旦ドル/円は109円台まで円安となると7日にルピー/円は1.444の当月高値を示現。しかし、その翌週にはNYで一日あたり感染者数が過去最多となったことに加え原油安がリスクセンチメントを悪化。ドル/円は107円台前半までじり安の展開。上述のようにドル/ルピーが76後半まで吹き上がった16日と21日には当日安値となる1.395まで下落。その後ドル/ルピーはルピー高へ振れたが、ドル/円も106円台まで円高となっており、ルピー/円は1.41を挟んで小動き。29日執筆時点で1.406レベルで推移している。

■ 今月の見通し

【5月の米ドル/インドルピーは高値圏での推移を想定】

4月の相場に影響を与えたFacebookインド企業への出資の事案は金額にして57億ドルと相応に大型となっている。複数営業日に分散してのルピー買いが想定されており、短期的にはルピー高方向の材料となるだろう。同じくルピー支援材料としてはインド中銀による為替介入が挙がる。ただし、ドル/ルピーが史上最高値2度更新した4月においても、スポット市場での介入は想定ほど多くなく、「ドル/ルピーが〇〇になったら介入」という為替水準に重きをおいた判断というよりは、「大きな変動を和らげる」というターゲットになっているように推測される。同時に原油安がきていることから、76台ミドルであってもRBIとしては心地よい水準では、との意見も聞かれている。「介入によってルピー高になる」というよりは「急激にルピー安になる場面で介入が入る」というスタンスで臨むのがリーズナブルであろう。

次に原油価格は、通常原油価格の下落はルピー高の材料としてはたらくが、直近の原油安はそれに呼応するリスク回避の動きの方がアジア通貨全般に対する影響力が強く、現状では原油価格が下落するとルピーが安くなるというロジックになっている。インドは貯蔵設備が貧弱なため、他の原油輸入国対比で現状の原油安の恩恵を受けづらいという背景もあるだろう。

また資本流出の観点では外国人投資家の動きが需要であるが、3月は83億ドルのネット売りに対して、4月は27日までで5億ドル弱となっており、パニック的な売りとはなっていないように見受けられる。インド政府の感染者数/死者数はすでに信ぴょう性を疑う声が市場参加者の中ではかなり強く、今後の注目点としてはロックダウンの延長有無や部分緩和の有無が外国人投資家の動きに影響を与えやすいのでは。

総じて、コロナの出口が見えないうちは新興国通貨全体が売られやすい地合いを基本と考えておきたいが、上述の資本取引の話題や、中銀の為替介入の動きを勘案すれば、ドル/ルピーは現状の高値水準での取引を想定しておきたい。

■ 今月のつぶやき(現地からの声)

『当地の飲料水事情』

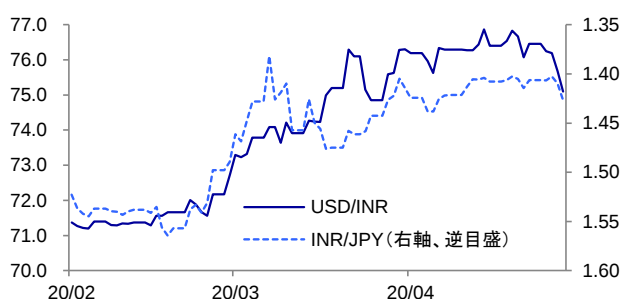
インド人は概して水分補給に敏感だ。夏でも冷たい水ではなく常温のものを好む人が多い。冷水は身体を冷やすので好ましくないという考え方が浸透している。インド人の来客には「冷水と常温水のどちらをお持ちしましょうか」と尋ねるのがベターだ。

同僚らはデスクに水筒を置いてこまめに飲んでいる。空港の手荷物検査でも、1リットルまでの飲料水の持込は許容されることが多い。国鉄でボックス席に座ると、初対面の乗客同士が気軽にややつや弁当を分け合っており、飲用水に関しては勝手に飲んでもいい雰囲気がある。新聞も同じで、自分が持ち込んだ新聞を誰かが読んでいることは珍しくない。最初は抵抗があったが、大らかで便利な習慣だと思う。この場合、全員が水のボトルに口を付けず、上を向いて注ぎ込むいわゆる「インド飲み」をするのが重要だ。さもないければ「自分のボトルにはすでに口をつけた」と、共有を断つても良い。

バンガロールは温暖で乾燥しており、長い時間外にいると知らず知らずのうちに熱中症気味になることがある。インド人を見習い、こまめに常温水を飲むようにしたい。お腹の具合が良くない場合は、真水よりも経口補水液の方が良い。ゲータレードが一般的なのほか、エレクトラルという粉末も薬局で販売されている。(インド営業部バンガロール 木原志乃)

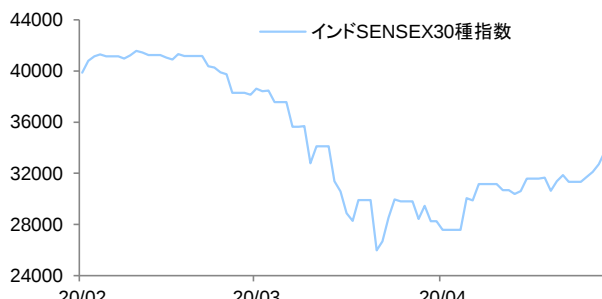
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

発表日	イベント
4/2	製造業PMI
4/9	鉱工業生産
4/13	CPI
4/15	貿易収支
4/17	リバースレリポ

(資料) ブルームバーク

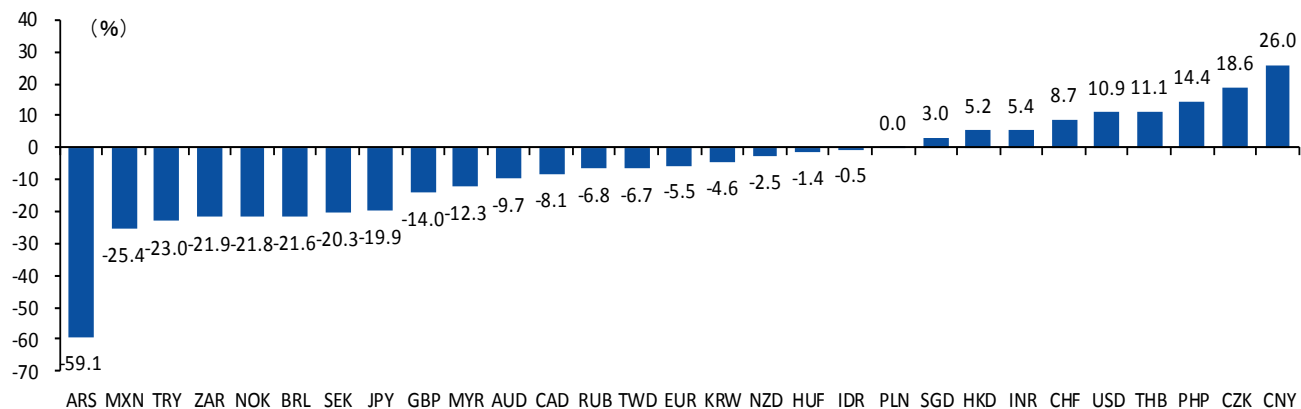
期間	予想	結果	前回
3月	-	51.8	54.5
2月	3.4%	4.5%	2.1%
3月	5.9%	5.9%	6.6%
3月	\$7.0bio赤字	\$9.8bio赤字	\$9.9bio赤字
-	-	3.75%	4.00%

■ 為替市場・株式市場騰落率

	為替市場	2019年末	2020年4月末	騰落率	株式市場	2019年末	2020年4月末	騰落率	USD換算
先進国									
米国	-	-	-	-	NYダウ平均	28538.44	24345.72	-14.7%	-
日本	USD/JPY	108.61	107.18	-1.3%	日経平均株価	23656.62	20193.69	-14.6%	-13.5%
ユーロ圏	EUR/USD	1.1213	1.0955	-2.3%	ドイツDAX指数	13249.01	10861.64	-18.0%	-18.0%
英国	GBP/USD	1.3257	1.2594	-5.0%	ロンドンFTSE100指数	7542.44	5901.21	-21.8%	-17.6%
豪州	AUD/USD	0.7021	0.6512	-7.2%	S&P/ASX200指数	6684.075	5522.353	-17.4%	-10.9%
カナダ	USD/CAD	1.299	1.3945	7.4%	S&Pトロント総合指数	17063.43	14780.74	-13.4%	-19.3%
エマーゼンゲアジア									
中国	USD/CNY	6.9632	7.0632	1.4%	上海総合	3050.124	2860.082	-6.2%	-7.6%
香港	USD/HKD	7.7914	7.752	-0.5%	香港ハンセン	28189.75	24643.59	-12.6%	-12.1%
インド	USD/INR	71.38	75.1012	5.2%	インドSENSEX30種	41253.74	33717.62	-18.3%	-22.3%
インドネシア	USD/IDR	13866	14882	7.3%	ジャカルタ総合	6299.539	4716.403	-25.1%	-30.2%
韓国	USD/KRW	1155.84	1204.44	4.2%	韓国総合株価	2197.67	1947.56	-11.4%	-15.0%
マレーシア	USD/MYR	4.091	4.3022	5.2%	ブルサマレーシアKLCI	1588.76	1407.78	-11.4%	-15.7%
フィリピン	USD/PHP	50.655	50.42	-0.5%	フィリピン総合	7815.26	5700.71	-27.1%	-26.7%
シンガポール	USD/SGD	1.3459	1.4099	4.8%	シンガポールST	3222.83	2624.23	-18.6%	-22.3%
台湾	USD/TWD	29.991	29.736	-0.9%	台湾加権	11997.14	10992.14	-8.4%	-7.6%
タイ	USD/THB	29.705	32.465	9.3%	タイSET	1579.84	1301.66	-17.6%	-24.6%

(資料)ブルームバーグ、みずほ銀行

■ 実質実効為替レート(REER)の1994年以降の平均からの乖離(2020年3月時点)



■ 実質GDP成長率

	2018Q3	2018Q4	2019Q1	2019Q2	2019Q3	2019Q4	2020Q1	2018	2019
	(前年比%、*前期比年率%)							(前年比%)	
先進国									
米国*	2.9	1.1	3.1	2.0	2.1	2.1	-4.8	2.9	2.3
日本*	-3.3	2.4	2.2	2.3	0.1	-7.1		0.3	0.7
ユーロ圏	1.6	1.2	1.4	1.2	1.3	1.0	-3.3	1.9	1.2
英国	1.6	1.4	2.0	1.3	1.3	1.1		1.3	1.4
豪州	2.5	2.2	1.7	1.6	1.8	2.2		2.8	1.8
カナダ*	2.5	1.0	1.0	3.5	1.1	0.3		2.0	1.6
エマージングアジア									
中国	6.7	6.5	6.4	6.2	6.0	6.0	-6.8	6.7	6.1
香港	2.6	1.1	0.7	0.4	-2.8	-2.9		2.9	-1.2
インド	6.2	5.6	5.7	5.6	5.1	4.7	5.8	8.0	8.3
インドネシア	5.2	5.2	5.1	5.1	5.0	5.0		5.2	5.0
韓国	2.1	2.9	1.7	2.0	2.0	2.3	1.3	2.7	2.0
マレーシア	4.4	4.7	4.5	4.9	4.4	3.6		4.7	4.3
フィリピン	6.0	6.3	5.6	5.5	6.0	6.4		6.2	5.9
シンガポール	3.0	1.1	1.0	0.2	0.7	1.0	-2.2	3.5	0.7
台湾	2.5	2.0	1.8	2.6	3.0	3.3	1.5	2.8	2.7
タイ	3.2	3.8	2.9	2.4	2.6	1.6		4.2	2.4

(注)インドの年間成長率は会計年度(4～3月)。

(資料)ブルームバーグ、みずほ銀行

■ 失業率

	19/08	19/09	19/10	19/11	19/12	20/01	20/02	20/03	2018	2019
	(%)								(%)	
先進国										
米国	3.7	3.5	3.6	3.5	3.5	3.6	3.5	4.4	3.9	3.7
日本	2.3	2.4	2.4	2.2	2.2	2.4	2.4	2.5	2.4	2.4
ユーロ圏	7.5	7.5	7.4	7.4	7.3	7.3	7.3	7.4	8.2	7.6
英国	3.9	3.8	3.8	3.8	3.8	3.9	4.0		4.1	3.8
豪州	5.3	5.2	5.3	5.2	5.1	5.3	5.1	5.2	5.3	5.2
カナダ	5.7	5.5	5.6	5.9	5.6	5.5	5.6	7.8	5.8	5.7
エマージングアジア										
中国		3.6			3.6				3.8	3.6
香港	2.9	2.9	3.1	3.2	3.3	3.4	3.7	4.2	2.8	2.9
インドネシア	5.3								5.2	5.2
韓国	3.1	3.4	3.5	3.6	3.7	4.0	3.3	3.8	3.8	3.8
マレーシア	3.3	3.3	3.2	3.2	3.3	3.2	3.3		3.3	3.3
フィリピン			4.5			5.3			5.3	5.1
シンガポール		2.3			2.3			2.4	2.1	2.3
台湾	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.8	3.7	3.7
タイ	1.0	1.0	1.0	1.1	1.0	1.1	1.1	1.0	1.1	1.0

(資料)ブルームバーグ、みずほ銀行

■ 消費者物価上昇率

	19/08	19/09	19/10	19/11	19/12	20/01	20/02	20/03	20/04	2018	2019
	(前年比%)									(前年比%)	
先進国											
米国	1.7	1.7	1.8	2.1	2.3	2.5	2.3	1.5		2.4	1.8
日本	0.3	0.2	0.2	0.5	0.8	0.7	0.4	0.4		1.0	0.5
ユーロ圏	1.0	0.8	0.7	1.0	1.3	1.4	1.2	0.7	0.4	1.8	1.2
英国	1.7	1.7	1.5	1.5	1.3	1.8	1.7	1.5		2.5	1.8
豪州		1.7			1.8			2.8		1.9	1.6
カナダ	1.9	1.9	1.9	2.2	2.2	2.4	2.2	0.9		2.3	1.9
エマージングアジア											
中国	2.8	3.0	3.8	4.5	4.5	5.4	5.2	4.3		2.1	2.9
香港	3.5	3.2	3.1	3.0	2.9	1.4	2.2	2.3		2.4	2.9
インド	3.3	4.0	4.6	5.5	7.4	7.6	6.6	5.9		4.0	3.7
インドネシア	3.5	3.4	3.1	3.0	2.7	2.7	3.0	3.0		3.2	3.0
韓国	0.0	-0.4	0.0	0.2	0.7	1.5	1.1	1.0		1.5	0.4
マレーシア	1.5	1.1	1.1	0.9	1.0	1.6	1.3	-0.2		1.0	0.7
フィリピン	1.7	0.9	0.8	1.3	2.5	2.9	2.6	2.5		5.2	2.5
シンガポール	0.4	0.4	0.5	0.6	0.8	0.8	0.3	0.0		0.4	0.6
台湾	0.4	0.4	0.4	0.6	1.1	1.9	-0.2	0.0		1.4	0.6
タイ	0.5	0.3	0.1	0.2	0.9	1.1	0.7	-0.5		1.1	0.7

(注)豪州は四半期データ。

(資料)ブルームバーグ、みずほ銀行

■ 経常収支

	2018Q2	2018Q3	2018Q4	2019Q1	2019Q2	2019Q3	2019Q4	2018	2019
	(対GDP比%)							(対GDP比%)	
先進国									
米国	-2.1	-2.2	-2.4	-2.4	-2.5	-2.5	-2.3	-2.4	-2.3
日本	4.1	3.9	3.5	3.6	3.5	3.4	3.6	3.5	
ユーロ圏	3.6	3.4	3.1	3.0	2.5	2.7	2.7	3.1	2.7
英国	-3.4	-3.5	-3.9	-4.6	-4.8	-4.8	-3.8	-3.9	
豪州	-2.8	-2.6	-2.1	-1.7	-0.8	0.1	0.5	-2.1	
カナダ	-2.9	-2.5	-2.5	-2.6	-2.3	-2.3	-2.0	-2.5	-2.0
エマージングアジア									
中国	0.6	0.4	0.2	0.7	0.9	1.1	1.0	0.2	
香港	3.7	3.2	3.7	4.3	5.1	6.0	6.2	4.3	
インド	-1.9	-2.3	-2.4	-2.1	-2.0	-1.5	-0.9	-2.4	-0.9
インドネシア	-2.2	-2.7	-3.1	-3.0	-3.0	-2.9	-2.7	-2.9	-2.7
韓国	4.3	4.6	4.6	4.7	4.3	3.8	3.7	4.5	
マレーシア	3.2	2.6	2.3	2.4	3.1	3.6	3.3	2.3	
フィリピン	-1.7	-2.8	-2.4	-2.7	-1.6	-1.0	-0.1	-2.4	
シンガポール	16.2	16.8	17.2	16.9	17.3	17.0	17.0	17.2	17.0
台湾	13.9	12.8	11.6	11.0	10.9	11.2	10.5	11.6	10.5
タイ	8.6	6.5	5.6	5.2	5.4	6.3	7.0	5.6	

(注)インドの年間経常収支は会計年度(4～3月)。

(資料)ブルームバーグ、みずほ銀行

■ 世界の政策金利

		現在 (%)	政策転換期		最近の政策変更		直近の政策動向		
			日付	水準 (%)	日付	変更幅	日付	決定事項	
先進国									
米国	FFレート誘導目標	0.00-0.25	緩和: 2019/7/31	2.25-2.50	2020/3/15	-100bp	2020/4/29	現状維持	
日本	無担保コール翌日物金利	0.10	緩和: 2008/10/30	0.50	2010/10/5	0-10bp	2020/4/27	現状維持	
ユーロ圏	主要リファイナンスオペ金利	0.00	緩和: 2011/11/3	1.50	2016/3/10	-5bp	2020/4/30	現状維持	
英国	バンク・レート	0.10	緩和: 2020/3/11	0.75	2020/3/19	-15bp	2020/3/26	現状維持	
豪州	キャッシュ・レート	0.25	緩和: 2011/11/1	4.75	2020/3/19	-25bp	2020/4/7	現状維持	
カナダ	翌日物金利	0.25	緩和: 2020/3/4	1.75	2020/3/27	-50bp	2020/4/15	現状維持	
エマージングアジア									
中国	1年物貸出基準金利(LPR)	3.85	緩和: 2012/6/8	6.31	2020/4/20	-20bp	2020/4/20	-20bp	
インド	翌日物レポ金利	3.75	緩和: 2019/2/7	6.50	2020/4/17	-25bp	2020/4/17	-25bp	
インドネシア	7日物リバースレポレート	4.50	緩和: 2019/7/18	6.00	2020/3/19	-25bp	2020/4/14	現状維持	
韓国	7日物レポ金利	0.75	緩和: 2019/7/18	1.75	2020/3/16	-50bp	2020/4/9	現状維持	
マレーシア	翌日物金利	2.50	緩和: 2019/5/7	3.25	2020/3/3	-25bp	2020/3/3	-25bp	
フィリピン	翌日物金利	2.75	緩和: 2019/5/9	4.75	2020/4/16	-50bp	2020/4/16	-50bp	
タイ	翌日物レポ金利	0.75	緩和: 2019/8/7	1.75	2020/3/20	-25bp	2020/3/25	現状維持	
ベトナム	リファイナンス金利	6.00	緩和: 2012/3/12	15.00	2019/9/16	-25bp	2019/9/16	-25bp	

(注) インドネシア中銀は2016年8月19日に政策金利をBIレートから7日物リバースレポレートに変更

(資料) ブルームバーグ、みずほ銀行